

目次

測定ルーチンの編集	1
測定ルーチンの編集: はじめに	1
標準編集コマンドの使用	2
やり直し	2
再実行	2
切り取る	3
コピー	3
ペースト	4
削除する	4
すべて選択	4
要素のパターンの定義と貼り付け	4
パターンの設定-[アラインメント]タブ	5
パターンの設定-[曲線]タブ	9
パターンの貼り付け	15
テキストの発見、及び、置き換え	16
見つける	16
置換	20
データ フィールドの編集	24
指定の線番号へジャンプ	25
参照コマンドへジャンプ、参照コマンドからジャンプ	26

名目値、及び、目標値の編集	27
推測フィーチャー オーバーライド	29
発見された名目値オーバーライド	29
名目値発見優先ダイアログ ボックスの理解	30
学習モードでの、名目値発見オーバーライド ダイアログ ボックスの使用:.....	32
実行モードでの、名目値発見優先ダイアログ ボックスの使用:.....	35
編集ウィンドウから公称値検索上書きダイアログボックスを使用する	36
実行用のコマンドをマーク	37
マーク	37
すべてをマーク	39
すべて消去	39
親モード.....	39
子モード.....	42
新パーツ配置モード.....	45
マーク済みフィーチャー セットの作成と実行	46
新規の、マーク済みフィーチャーセットを作成するには.....	47
マーク付きセットで要素を追加または削除するには.....	48
マーク済みフィーチャーセットのアイコンをカスタマイズするには.....	49
マーク済みフィーチャーセットを位置付けし直すには	50
マーク済みフィーチャーセットを実行するには.....	50
マーク済みフィーチャーセットをロックするには	50
マーク済みフィーチャーセットを削除するには.....	50

測定ルーチンの編集

ブレイクポイントの使用	51
ブレイクポイント	52
デフォルトを挿入	52
デフォルト設定を除去	53
すべて削除	53
開始点の設定	53
ブックマークの使用	55
ブックマーク	55
次のブックマーク	56
すべてのブックマークをクリアする	56
フォント、及び、色を変更	56
外部オブジェクトの編集	56
測定ルーチンが編集されることを防ぐために、プロテクトモードを使います。	57
CAD理論値のアップデート	59
実測値を公称値にリセットする	61

測定ルーチンの編集

測定ルーチンの編集: はじめに

PC-DMISの主な機能は、お客様が測定ルーチンを容易に作成、編集、及び、実行できるようにすることです。この章では、**編集メニュー**を使用して（その他のメニュー オプションも用いて）測定ルーチンを編集する方法について説明します。**編集メニュー**は、編集ウィンドウに現れるコマンドにより作動しますが、この章では編集ウィンドウそのものについての説明はいたしません。編集ウィンドウの詳細については、「**編集ウィンドウの使用**」の章を参照して下さい。

この章では、以下のトピックについて説明します:

- 標準編集コマンドの使用
- フィーチャー パターンの編集
- テキストの発見、及び、置き換え
- データ フィールドの編集
- 指定の線番号へジャンプ
- 参照コマンドへジャンプ、参照コマンドからジャンプ
- 推測フィーチャー オーバーライド
- 発見された名目値オーバーライド
- 実行用のコマンドをマーク
- マーク済みフィーチャー セットの作成と実行
- ブックマークの使用
- ブレークポイントの使用
- フォント、及び、色を変更
- 外部オブジェクトの編集
- 編集防止の測定ルーチンを保護すること
- CAD理論値のアップデート
- 実測値を公称値にリセットする

標準編集コマンドの使用

大部分のWindowsアプリケーションと同様、PC-DMISでは、お手持ちの測定ルーチン
大部分のWindowsアプリケーションと同様、PC-DMISでは、お手持ちの測定ルーチン
において、標準編集コマンドを用いることができます。以下の標準メニュー オプショ
ンが利用可能です:

- 元に戻す
- 再実行
- 切る
- コピー
- 貼り付け
- 削除する
- 全部選択

やり直し

編集 | アンドウ メニュー オプションを選ぶと、編集ウィンドウ内での直前の変更が除
去されます。複数の変更内容を除去するために、編集ウィンドウにおいて**アンドウ** オ
プションを継続して選択することが可能です。



異なる編集ウィンドウモードに切り換わると、すべての変更内容がメモリーか
ら完全に削除されることに注意してください。

再実行

編集 | やり直し メニュー オプションを選ぶと**アンドウ** メニュー オプションを用いて行
われた、直前の変更が覆されます。**アンドウ やり直し** オプションを使用することがで
きます。



異なる編集ウィンドウモードに切り換わると、すべての変更内容がメモリーから完全に削除されることに注意してください。

切り取る

編集 | カットメニュー オプションを選ぶと、クリップボードを用いて、コマンド（またはテキスト）をあるエリアから別のエリアに切り取るまたは移動することができます。

カットを使ってコマンドを移動するには:

1. 移動したいコマンドを強調表示します。
2. **カット**オプションを選択して下さい。このコマンドは編集ウィンドウから取り除かれて、そしてクリップボードの上に保存されます。
3. **カット**コマンドを回復するには**貼り付け**コマンドを選択して下さい。（詳細については、貼り付けを参照してください）。



Cutコマンドを選択すると、クリップボードの内容が**カット**選択に置き換わりします。

コピー

編集 | コピーメニュー オプションを選ぶと、クリップボードを用いて、コマンド（またはテキスト）をあるエリアから別のエリアにコピー及び移動することができます。この選択と **カット** 選択の唯一の違いはコピーされるときコマンドは編集のウィンドウから取除かれないことです。

コマンドをコピーして貼り付けるには:

1. 要望のコマンドを強調表示します。
2. **コピー**コマンドを選択して下さい。テキストはその時点の位置に残りますが、クリップボードにも保存されます。

3. カットされたテキストを回復するには貼り付け コマンドを選択して下さい。(「貼り付け」を参照してください。)



COPYコマンドを選択すると、クリップボードの内容がコピーされた選択に置換されます。

ペースト

編集|貼り付けメニューオプションは、現在の挿入点（またはカーソル位置）にクリップボードからコピーされたコマンド（またはテキスト）を編集ウィンドウに貼り付けます。

削除する

編集 | 削除 | 選択メニュー オプションを選ぶと、その時点でハイライト表示されたセクションが、編集ウィンドウから削除されます。これは、削除された選択の内容をクリップボードに置きません。

すべて選択

編集 | 全部選択 メニュー オプションを選ぶと、編集ウィンドウの内容すべてを、編集目的で選択することができます

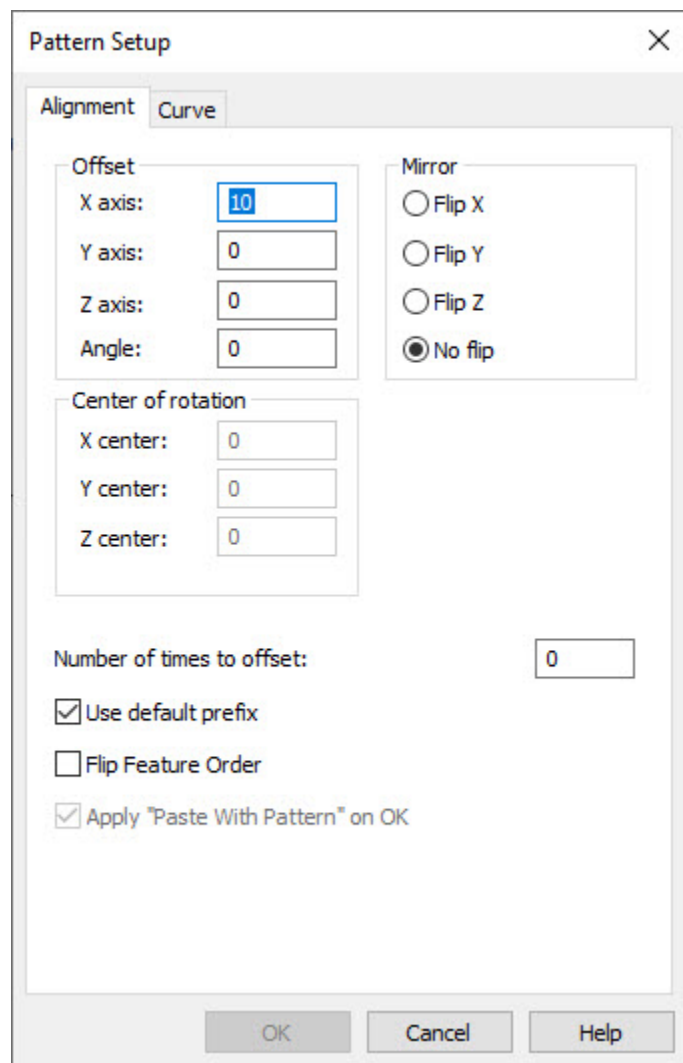
要素のパターンの定義と貼り付け

要素のパターンはパートでよく発生します。PC-DMISを使用すると、パターン化された要素を作成できます。

編集|パターンを使用すると、[パターン設定]ダイアログボックスを開くことができます。このダイアログボックスには、[アラインメント]タブと[曲線]タブの2つのタブがあります。これらのタブは、[編集|パターンで貼り付け]メニュー項目を選択したときに使用するオフセットやその他のオプションを定義します。

パターンの設定-[アラインメント]タブ

[パターンを設定]ダイアログボックスの[整列]タブには、非曲線パターンのパターン設定の基本的なオプションがあります。また、角度オフセットパターンの一時的な整列を確立することもできます。



オフセット

X軸、Y軸、およびZ軸ボックスを使用すると、パターンのオカレンス間のX、Y、およびZオフセットを設定できます。PC-DMIS は貼り付けられた要素(または要素セット)の公称上のX、YおよびZデータをこれらのオフセット値だけ補正します。
角度 ボックスを使用すると、繰り返されるパターン間の角度オフセットを設定することができます。

角度オフセットは、基準がパターンのある中心にある穴である場合に、ボルト穴パターンにある数個の穴位置を測定するときに役立ちます。PC-DMISは、**回転中心**エリアで定義された原点を中心にオフセットを回転させます。

X、Y、Zオフセットで角度オフセットを使用し、**ミラー**エリアでフリップを使用できます。PC-DMISはこれらのオフセットを以下の順に適用します：反転、回転、平行移動。

ミラー変換

これにより、軸をミラーリングできます。**反転 X**、**反転 Y**または**反転 Z**オプションは貼り付けられたパターンに対して選択されたX、YおよびZ軸を反転します。**反転なし**は、軸が反転されていないことを意味します。

回転の中心

回転中心エリアには、角度オフセットパターン（たとえば、中央穴の周りのボルト穴パターン）の回転中心を定義するためのボックスがあります。バージョン 2021.1より以前では、中央穴の周りに角度パターンを作成する場合、その要素でアラインメントを作成する必要がありました。現在では、そのアラインメントを作成する必要はありません。代わりに、中央の円要素をクリックすると、PC-DMISがCADからXYZ中心の位置を抽出し、それらの値を**X中心**、**Y中心**および**Z中心**ボックスに入力します。PC-DMISは回転中心周りに、現在アクティブな作業平面内部で回転を適用します。

[オフセット]の[角度]ボックスに値を入力すると、このボックスは編集できるようになります。

補正回数

このボックスではPC-DMISがパターンを補正する回数を設定することができます。デフォルト値は1です。

デフォルトの接頭辞を使用

デフォルト接頭辞チェックボックスはユーザーが**パターンの貼り付け**メニュー項目を使用して要素を貼り付けるときに、PC-DMISがデフォルト ID 接頭辞を使用するかどうかを指定します。

- このチェックボックスを選択すると、**パターンの貼り付け**メニュー項目は新規要素を張り付けるときにデフォルト ID 接頭辞を使用します。
- このチェックボックスの選択を解除すると、**パターンの貼り付け**メニュー項目は各要素IDをベース要素名として使用し、インクリメンタルな数字の接尾辞を追加します。

要素のパターンの定義と貼り付け



多くの行を張り付けるときにデフォルトの接頭辞を使用しない場合、各要素 ID が新しいパターンを表すため処理時間が長くなります。

要素順位のフリップ

フリップ要素の順番チェックボックスは貼り付けられた要素の順番を逆転させます。



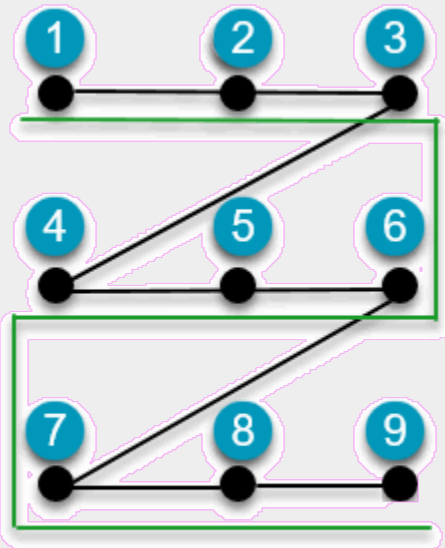
このチェックボックスは自動要素と測定された要素でのみ機能します。また、これは以下の移動コマンドでのみ機能します：

MOVE/POINT、MOVE/INCREMENT、MOVE/CLEARPLANE、MOVE/CIRCULAR、MOVE/ALL および MOVE/CLEARPOINT



3つの自動要素1、2および3があるとします。このチェックボックスを選択しない場合、PC-DMIS は 4、5、6 として新しい要素を貼り付けます。

このチェックボックスを選択し、**補正する回数値**を 1 から 2 に変更すると、1, 2, 3, 6, 5, 4, 7, 8, 9 の順番で 9 個の要素が得られます。各要素の新規セット (6、5、4 および 7、8 および 9) は最初のセットからその順番を逆転させます。PC-DMIS は実行中にその順番に従います。下図の緑色線でこれを確認できます。このチェックボックスを選択しない場合、黒い線が元の実行順序を示します。



OKで「パターンの貼り付け」を適用

要素のパターンの定義と貼り付け

もし良ければ [パターンの貼り付け] メニューを手動で選択するか、またはこのチェックボックスを使用することができます。このチェックボックスで [OK] をクリックすると、**パターンの貼り付け**操作がバックグラウンドで自動的に適用されます。

パターンの貼り付け - 非曲線手順

非曲線パターンを作成するには、次の手順に従います：

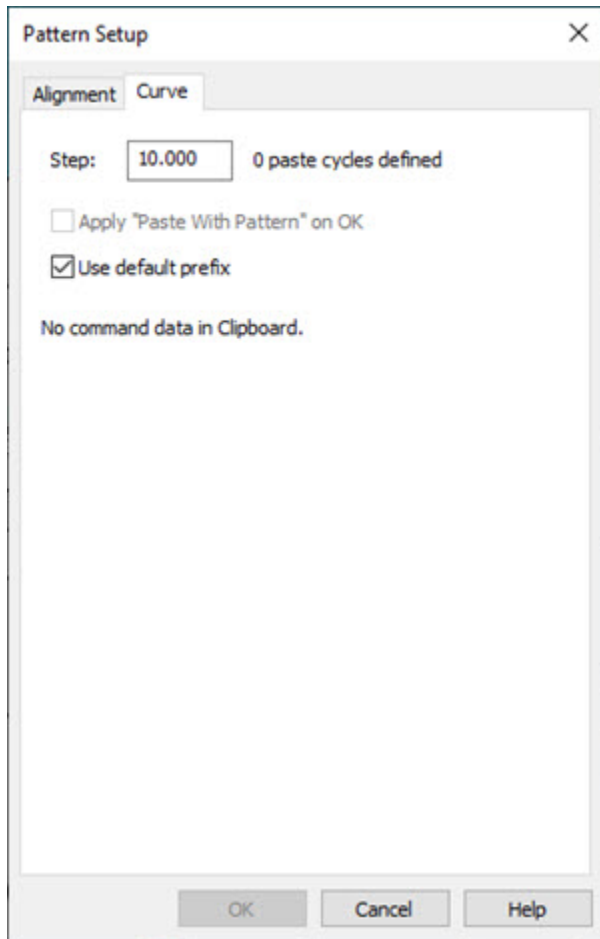
1. 貼り付ける自動要素、要素、およびその他のコマンドを定義してから、クリップボードにコピーします。ユーザーが1つまたは複数の自動要素をコピーして貼り付け、定義済みクリアランス平面を使用する場合必ず、コピーする自動要素内部でCLEARPLANE=ONを設定してください。
2. **編集|パターン**を選択して、**[パターンの設定]**ダイアログボックスを開きます。
3. **[整列]** タブにアクセスし、**[オフセット]** エリアに希望のオフセット値を入力します。角度パターンを実行している場合、角度オフセットを入力して中央の穴をクリックし、**[回転中心]** エリアの値を取得します。
4. 軸をミラーリングする場合は、**[鏡面反射]**エリアから目的のオプションを選択します。
5. **補正する回数**ボックスに補正を行う回数を入力します。
6. **[OK]**に**[パターンで貼り付け]**を適用するをオンにします。
7. **[OK]**をクリックして定義を保存し、定義されたパターンを貼り付けます。

パターンの設定-[曲線]タブ

[パターンの設定]ダイアログボックスの**[曲線]**タブでは、パーツサーフェスの周囲に1つまたは複数のエッジセグメントを持つパーツのパターンを設定できます。これらのセグメントは、直線エッジまたは曲線エッジであることができます。このタブを開いた状態で、CADモデルをクリックしてエッジを選択できます。複数のエッジを選択するには、Ctrlキーを押しながらパーツをクリックして、新しいエッジを追加します。このタブは、パーツの表面の周りに貼り付けられたいくつかの点で構成される輪郭を測定するのに役立つ場合があります。

選択したエッジを削除するには、そのエッジにカーソルを合わせてもう一度クリックします。最後に選択したエッジを削除するには、青いボールをクリックします。

パターンを貼り付けると、コピーされたコマンドは、選択したエッジに沿って定義されたオフセット値に貼り付けられます。



ステップ

これはパターン化された要素間のオフセット距離を定義します。デフォルトは 10 です。単位は測定ルーチンの単位に基づいており、それに応じて変換されます。ステップ値は 0 (ゼロ) より大きくなければなりません。

[ステップ] ボックスに値を入力したら、ボックスからタブアウトするか、またはボックスの外側をクリックして、入力した値を設定する必要があります。PC-DMIS は入力した値に基づいて [ステップ] ボックスの右にあるテキストを更新します。

OKで「パターンの貼り付け」を適用

もし良ければ [パターンの貼り付け] メニューを手動で選択するか、またはこのチェックボックスを使用することができます。このチェックボックスで [OK] をクリックすると、パターンの貼り付け操作がバックグラウンドで自動的に適用されます。

デフォルトの接頭辞を使用

デフォルト接頭辞チェックボックスはユーザーが**パターン**の貼り付けメニュー項目を使用して要素を貼り付けるときに、PC-DMISがデフォルト ID 接頭辞を使用するかどうかを指定します。

- このチェックボックスを選択すると、**パターン**の貼り付けメニュー項目は新規要素を張り付けるときにデフォルト ID 接頭辞を使用します。
- このチェックボックスの選択を解除すると、**パターン**の貼り付けメニュー項目は各要素IDをベース要素名として使用し、インクリメンタルな数字の接尾辞を追加します。



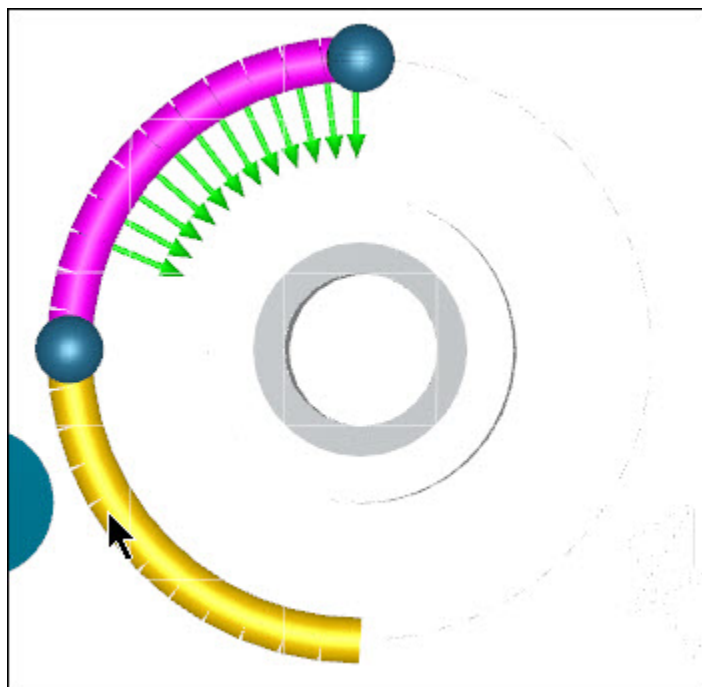
多くの行を張り付けるときにデフォルトの接頭辞を使用しない場合、各要素 ID が新しいパターンを表すため処理時間が長くなります。

[OK] ボタンをクリックした後、Esc キーを押して**パターン**の貼り付けプロセスを停止することができます。すでに貼り付けられている要素はそのまま残りますが、PC-DMIS は新しい要素を貼り付けません。

パターンの貼り付け - 曲線手順

1つまたは複数のエッジセグメントを持つ曲線パターンを作成するには、次の手順に従います：

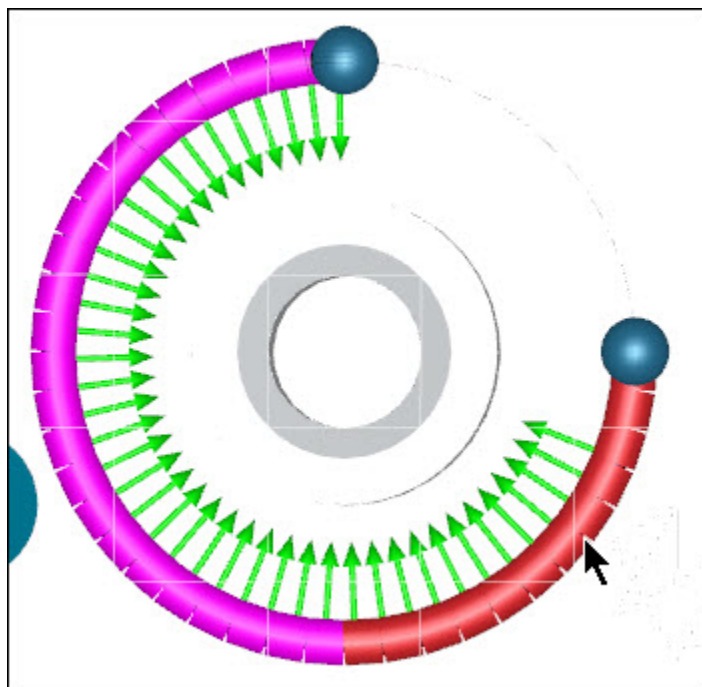
1. 貼り付ける自動要素、要素、およびその他のコマンドを定義してから、クリップボードにコピーします。ユーザーが1つまたは複数の自動要素をコピーして貼り付け、定義済みクリアランス平面を使用する場合必ず、コピーする自動要素内部で**CLEARPLANE=ON**を設定してください。
2. **編集|パターン**を選択して、**[パターンの設定]**ダイアログボックスを開きます。
3. **[曲線]**タブにアクセスし、現在の測定ルーチンの単位（mm またはインチ）で希望の**ステップ**値を入力します。
4. ダイアログボックスを開いたままにして、ポインタを最初のセグメントに合わせます。それは黄色に変わります。
5. そのセグメントをクリックして選択します。選択したセグメントがピンク色に変わります。



追加されたセグメント（ピンク）および追加される新たなセグメント（黄色）の例。

6. 複数のセグメントを選択する場合は、追加するセグメントをクリックする前にCtrlキーを押したままにします。
7. 間違えて最後のセグメントを削除したい場合（またはPC-DMISがベクトルを誤って解釈した場合）、Ctrlキーを押しながら、最後に選択したセグメントにポインタを合わせます。赤に変わったら、そのセグメントをもう一度クリックして削除します。その後、セグメントを再選択して、別のセグメントを選択できます。

要素のパターンの定義と貼り付け

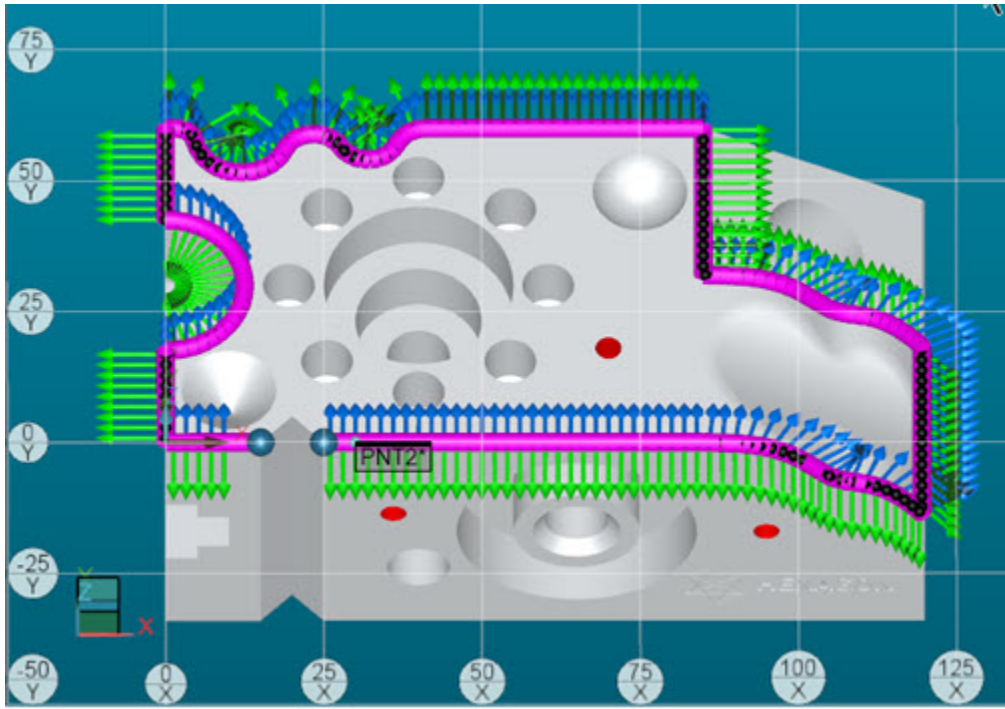


削除するセグメントの例（赤色）

8. [OK]に[パターンで貼り付け]を適用するをオンにします。
9. [OK]をクリックして定義を保存し、定義されたパターンを貼り付けます。

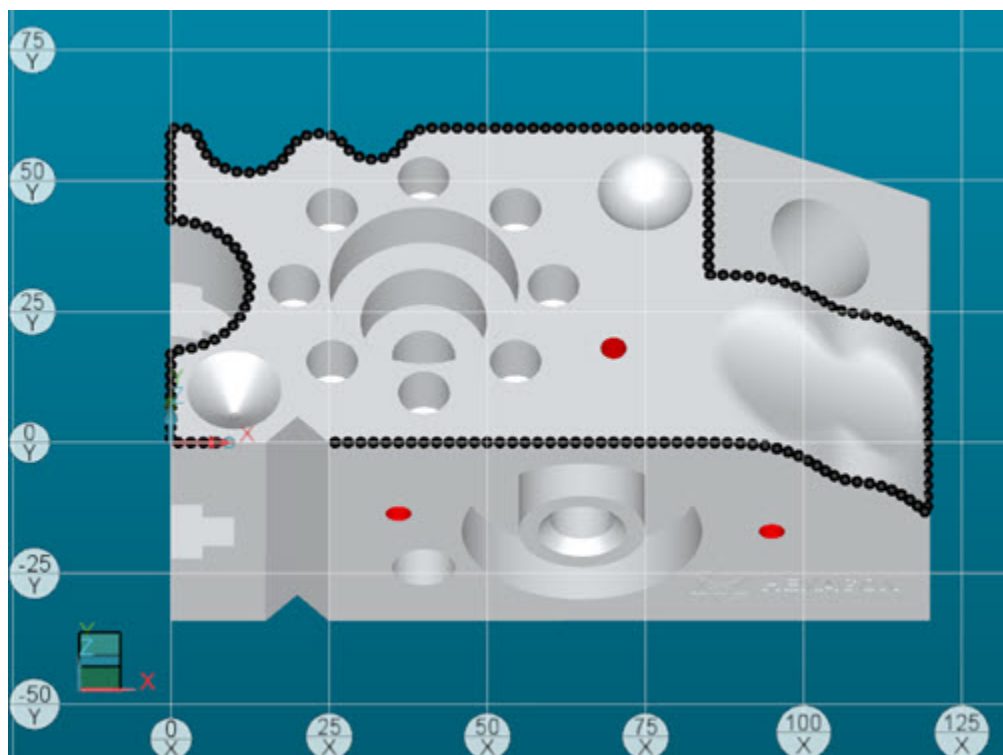
例

この最初の画像は、2mmのステップ値でHexagonデモブロックの上面の周りに貼り付けられた単一の自動エッジポイント要素のパターンを持つペーストを示しています。ダイアログボックスを開くと、PC-DMISは、各点のサーフェスベクトルとエッジベクトルに青と緑の矢印を表示します。ピンクの線と曲線は、選択したエッジを示しています。



[OK] をクリックして貼り付けられたパターンを確定し、要素ラベルを非表示にすると、上記の例では選択したエッジに沿って等間隔に配置された数百の点コマンドが生成されます。

要素のパターンの定義と貼り付け



パターンの貼り付け

[編集 | パターンの貼り付け] メニュー項目では、[パターン設定] ダイアログボックスで定義されたオフセットおよび他のパラメーターを使用して、クリップボードにある要素または要素グループを編集ウィンドウに張り付けることができます。



[パターン設定] ダイアログボックスの [アライメント] または [曲線] タブにある [OKで「パターンの貼り付け」を適用する] チェックボックスをオンにする場合、このメニュー項目を選択する必要はありません。

PC-DMIS はクリップボードにコピーされた要素に基づいてこれらの新しい要素を作成します。

PC-DMISはグラフィックス表示ウィンドウに新しい要素を描画します。

非曲線パターンの場合

PC-DMISは [パターン設定] ダイアログボックスの [アランメント] タブで定義されたパターンオフセットをもつ要素を適用します。

PC-DMISは [パート設定] ダイアログボックスの [アライメント] タブにある補正する回数ボックスに表示されている回数だけ、クリップボードの内容を編集ウィンドウに貼り付けます。

PC-DMISがクリップボードの内容を貼り付けるたびに、定義されたパターンオフセットによって以前に挿入された要素に対して新しい要素がオフセットされます。

PC-DMISは [パターン設定] ダイアログボックスにある [デフォルトの接頭辞を使用する] チェックボックスの設定に基づいて要素 ID を生成します。

曲線パターンの場合

PC-DMISは選択されたすべてのエッジについて、クリップボードの内容を [ステップ] 値を使って等間隔に編集ウィンドウに貼り付けます。

テキストの発見、及び、置き換え

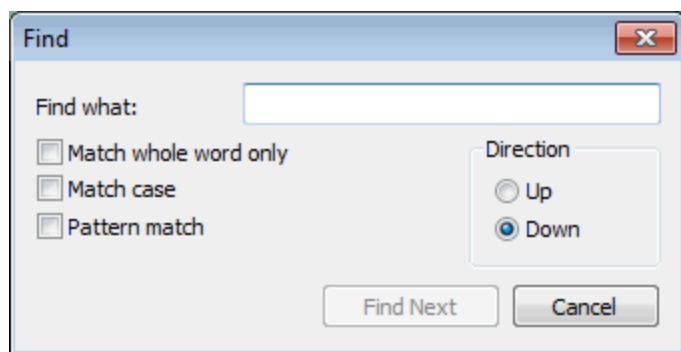
以下のメニュー オプションにおいて述べられている、決まった標準的表現を用いて、編集ウィンドウ フィールド内のテキストを見つけ、置き換えることができます。

- 見つける
- 置き換える

見つける

編集 | 検索と置換 | 検索 メニュー オプションを選ぶと **検索**ダイアログ ボックスが開き、編集ウィンドウ内で、指定されたキーワードを検索することができます。

テキストの発見、及び、置き換え



[検索] ダイアログボックス

ワイルドカード文字を使用する

[置き換え] ダイアログ(編集 | 検索と置換 | 置換)ボックスにある [パターン一致] チェックボックスを選択して、ワイルドカード文字を使用しパターン一致を実行します。

このオプションを選ぶと、また、各種のサーチ基準に適合するテキストを見つけることができます。以下の表を参考にして下さい:

見つけるテキストの内容	使用するワイルドカード	いくつかの例
いずれか一文字	.	D.M は「DIM」にも「D4M」にも適合します。
文字セット	[]	D[MI]S は「DIS」と「DMS」を検索しますが、「DMIS」または「DUS」は検索しません。
ある範囲内のいずれか一文字	[^-]	LINE[^2-6]のサーチでは、「LINE2」と「LINEH3」は発見されますが、「LINE 1」か「LINEH7」は除かれます。範囲は昇順にする必要があります。
角カッコ内の文字を除く、いずれか一文字	[^]	POINT[^32]のサーチでは、「POINT1」、「POINT5」、及び、「POINT12」は発見されますが、「POINT3」、「POINT2」、「POINT21」、または、「POINT30」は除かれます。

角カッコ内の文字の範囲を除く、いずれか一文字	[^x-z]	LINE[^2-5] は「LINE6」と「LINEH」を検索しますが、「LINE3」は検索しません。
「-」の活字を含む文字セットでは「-」がその範囲の最初、または、最後の文字である。セットの範囲が「-」を除く場合、「-」は2番目の文字となる。	[-]	LINE[0-9-]は「LINE4」と「LINE-」に適合します。LINE[^0-9] は「LINEH」と一致しますが、「LINE-」とは一致しません。
<p>以下の場合を除き、0個以上の文字が先行する:</p> <p>「*」がストリングの先頭に来る。</p> <p>「*」が、ストリングの先頭にある「^」に続く。</p> <p>「*」が丸カッコ内のサブ入力式の先頭に来る。</p>	*	<p>lo*p は「lp」と「loooooop」に適合します。</p> <p>^*は、ラインの先頭にある場合、「*」に適合します。</p>
特定の文節、または、文字で始まるライン。「^」は、ストリングの先頭にある場合にのみ、それに含まれます。	^	^ CIRCLEのサーチでは、「CIRCLE」という単語で始まるすべての行が検索されます。PC-DMISの編集ウィンドウでは、字下げされた行はスペースで始まることに注意して下さい。
特定の文節、または、文字で終わるライン。「\$」は、ストリングの末尾にある場合にのみ、それに含まれます。	\$	ENDMEAS/\$のサーチは、「ENDMEAS/」で終わるラインを発見しますが、「MEAS/」で終わるラインは除かれます。
<p>見つける内容ボックス内の丸カッコでは、置き換える内容ボックスでの後の呼び出しに備えて、カッコの中にあるテキストが保存されます。</p> <p>置き換える内容ボックスにおいて、バックスラッシュ</p>	()、及び、\	<p>見つける内容: BO(BB)Y(RAY)</p> <p>置き換える内容: DO1YP2</p> <p>その結果: DOBBYPRAY</p> <p>\1は、丸カッコによりオフセットされた最初の文字セットを使用し、\2は2番目のセットを使用する、というように続きます。</p>

テキストの発見、及び、置き換え

「\」が数字の前に来る時、置き換えテキスト内に定義されたパターンを加えます。



パターン適合については、PC-DMISの旧バージョンで行ったようなバックスラッシュ (\) を丸カッコに先行させる必要はありません。

あらかじめ定義済みの文字セットの使用

定義済みの文字セットに適合するサーチを行うには、**パターン適合** チェック ボックスを選択して下さい。その後、これらの定義済みの特別文字セットを用いて、テキストサーチを行うことができます：

文字セット	セットになっている文字
[:alnum:]	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789
[:alpha:]	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
[:blank:]	(スペース用活字とタブ活字)
[:digit:]	0123456789
[:graph:]	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789 !#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[^_`{ }~
[:lower:]	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
[:print:]	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789 !#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[^_`{ }~
[:punct:]	!#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[^_`{ }~
[:upper:]	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

[:xdigit:]

0123456789ABCDEF
abcdef

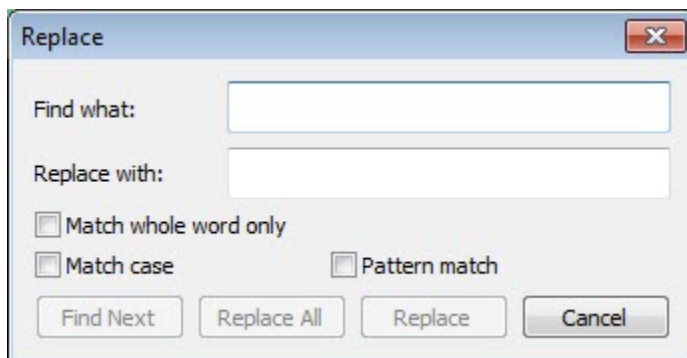
ある文字を含み、その後に幾つかの文字または数字が続き、さらに最初の文字と同じ文字が続く文字列を検索する場合、ここで表示されているような後方参照を使用して下さい: ([:alpha:][:alnum:]){1,\}1

特定の単語やフレーズを検索するには:

1. メニュー バーから **編集 | 検索及び置換 | 検索** を選択して下さい。
2. サーチを行う予定のキーワード、または、文節をタイプ入力して下さい。
3. 検索する方向 (**上方**または**下方**)を指示します。
4. PC-DMISが完全一致の単語を検索するようにしたい場合は、**完全一致の単語に限定**チェック ボックスを選択して下さい。例えば、「CIR」と入力すると、PC-DMISは「CIRCLE」より、「CIR」を検索します。
5. PC-DMISが大文字・小文字を区別した検索を行うようにしたい場合は、**大文字・小文字の区別の適合**チェック ボックスを選択して下さい。
6. [見つける] ボタンを押します (または、Enter キーを押します)。

置換

編集 | 見つける、及び、置き換える | 置き換えるオプションは見つけるオプションと同じように機能します (「見つける」を参照して下さい)。しかし、テキストが見つかりと置き換えるダイアログ ボックスを用いて、テキストを置き換えることが可能です。



[置き替え] ダイアログボックス

テキストの発見、及び、置き換え

ユーザは、ストリングの最後尾が編集可能なフィールドにあるかぎり、そして、そのフィールドが唯一の編集可能なフィールドであるかぎり、どのようなストリングでも、テキスト適合のサーチを行い、置き換えることが可能です。

有効な検索と置換の例：

文字列を検索：	<code>=AUTO/CIRCLE,SHOWALLPARAMS</code> <code>= NO</code>
文字列を置換：	<code>=AUTO/CIRCLE,SHOWALLPARAMS</code> <code>= YESと置き換えられます。</code>
文字列のエンドは編集可能なフィールドと一致することに注意してください。検索文字列の最後の編集可能なフィールドのみを変更できます。	

無効な例を検索して、置換します：

この例のように、1つの置換で2つの編集可能なフィールドを置換することはできません。

文字列を検索：	<code>=AUTO/CIRCLE,SHOWALLPARAMS</code> <code>= NO</code>
文字列を置換：	<code>=AUTO/LINE,SHOWALLPARAMS</code> <code>= YESと置き換えることはできません。</code>
円から線までは1つの編集可能なフィールドであり、NOからYESは別の編集可能な	

フィールドであるため、これは無効です。

この例のように、編集可能なフィールドを編集不可能なフィールドに置換することはできません：

文字列を検索：	<code>=AUTO/CIRCLE, SHOWALLPARAMS</code>
文字列を置換：	<code>=AUTO/CIRCLE, MYSHOWALL</code> で置き換えることはできません。
<p><code>MYSHOWALL</code>は定数であり、編集可能なフィールドではないため、これは無効です。</p>	

検索内容

このボックスを使用して、PC-DMISが検索するテキストを入力することができます。「検索」の項に記載されている様々なワイルドカードと検索パターンを使用できます。「見つける」を参照して下さい。

置換内容

このボックスを使用して見つかったテキストをそれで置き換えたいテキストを入力します。

テキストの発見、及び、置き換え

文字の完全一致のみ検索

このチェック ボックスを選択すると、PC-DMISはそのテキストを含む単語全体だけを検索します。例えば、**検索内容**ボックスに「CIR」を入力し、このチェックボックスを選択すると、PC-DMISは「CIR」のみを検索します。「CIRCLE」や「CIRCULAR」は検索しません。

大文字と小文字を区別

このチェック ボックスは[検索内容]ボックスで使用される大文字・小文字の区別に適合するテキストを検索するようPC-DMISに指示します。例えば、**検索内容**ボックスに「Point」を入力し、**大文字・小文字の区別の適合**チェック ボックスを選択すると、PC-DMISは「Point」と「Points」を検索しますが「POINT」は検索しません。

パターン適合

このチェック ボックスは指定されたパターンを検索するようPC-DMISに指示します。ワイルドカード文字またはその他の特殊文字を用いて一致するパターンを検索するとき、このチェックボックスを選択します。

[次を検索]ボタン

次を検索ボタンは検索しているテキストの次の項目を見つけるようPC-DMISに指示します。

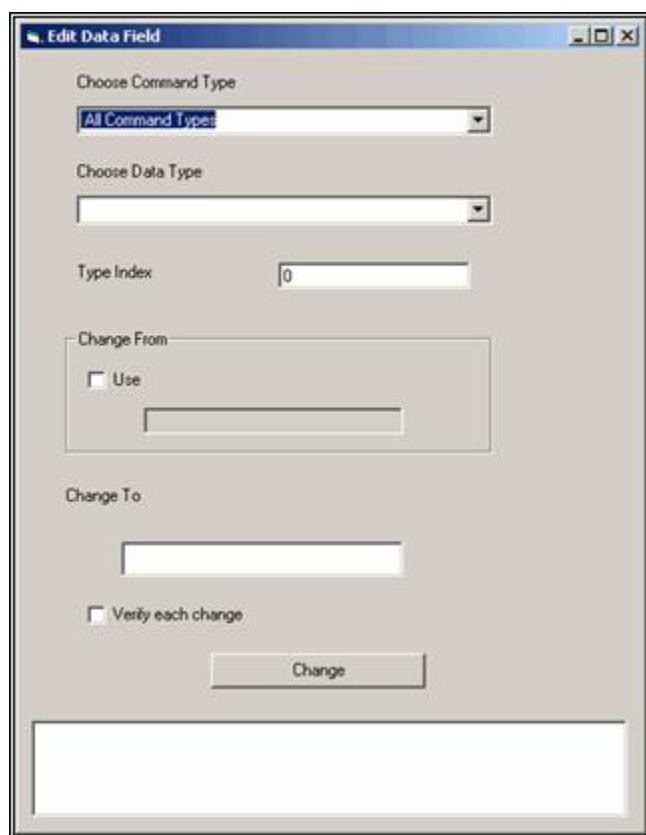
置換ボタン

置き換えるボタンは、発見されたテキストを**置き換える内容**ボックス内のテキストストリングに置き換えます。これを用いて、発見されたテキストを、一度にひとつずつ置き換えることができます。

すべて置換ボタン

すべてを置換ボタンは検索内容ボックス内のすべてのテキストを検索し、それらを置換内容ボックス内のテキストで置き換えるようにPC-DMISに指示します。

データ フィールドの編集



データフィールド編集ウィザード

編集データフィールドのウィザードは編集ウィンドウの中にある特定のコマンドタイプの指定されたデータフィールドの中のデータを変えさせ、PC-DMIS と作動する外部のプログラムです。このウィザードにアクセスするために、ウィザーズ ツールバーから データフィールドエディット アイコンを選択してください。

このウィザードはリプレース ダイアログボックスと違います。それによって編集ウィンドウのあらゆるモードのデータ項目を全体的に変えることができますが、[置き替え] ダイアログボックスはコマンドモード内部でのみ機能します。それに加えて、それは置き換えるダイアログ ボックスで変更できない値を置き換えることができます。

指定の線番号へジャンプ

データ フィールド編集ダイアログ ボックスには、以下の項目があります:

コマンドタイプ選択 - この一覧には、利用可能なタイプのコマンドが表示されます。

データタイプ選択 - この一覧には、選択されたタイプのコマンド用のデータタイプが表示されます。この一覧内で全データタイプを見る場合、**コマンドタイプ選択**一覧から**全コマンドタイプ**を選択して下さい。

タイプインデックス - このボックスでは、数値インデックスを用いて変更したいフィールドを正確に特定することができます。同一のデータタイプに複数のフィールドがあり、そのうちの一つのみ時変更したい場合、これは役に立ちます。インデックス値をタイプ入力すると、どのフィールドを変更するか決めることができます。例えば、**CLEARP** コマンドには二つの距離フィールドがあり、一つは、クリアランス距離、もう一つは通過の距離です。インデックス1をタイプ入力すると、空きの距離を、そして、インデックス値2は通過の距離を意味します。

変更する値 - このエリアには**使用チェック** ボックスと、値を入力するためのボックスがあります。このチェック ボックスを用いて、変更したい値を指定することができます。これは、PC-DMISが値の与えられたフィールドのみをターゲットとする、ことを意味します。

変更後の値 - このボックスでは、更新したいデータ フィールドの値を新規に決めることができます。

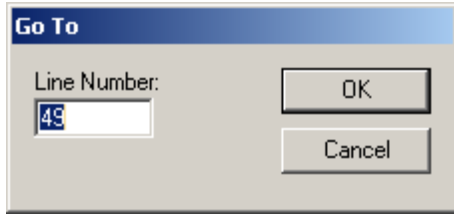
各変更を確認 - このチェック ボックスが選択された場合、PC-DMISはメッセージ ボックスを表示し、それには、変更する項目のID、その時点での値、およびデータ フィールドを新規の値に変更するか否かが示されます。

変更 - このボタンを押すと、データ フィールドを検索し、それを新規の値に変更するプロセスが開始します。

ステータス - ダイアログ ボックスの一番下にあるこのボックスは、変更プロセス中のステータス、または診断メッセージを表示します。

指定の線番号へジャンプ

PC-DMISでは、指定されたラインの番号へ簡単に飛び移ることが可能です。編集ウィンドウ内の、指定されたラインへジャンプするには**編集 | 見つける、及び、置き換える | 移動先メニュー オプション**を使用して下さい。



[移動先] ダイアログボックス

コマンド モードまたはDMISモードにおいて、特定の行番号にカーソルを移動するには、次の手順に従います：

1. [移動先] ダイアログボックスを開くには、[編集 | 移動先] メニューオプションを選択します。
2. [移動先]ダイアログボックスでは、最初に、カーソルが現在置かれている行が[行番号]ボックスに表示されます。
3. ご要望のジャンプ先の行番号を入力します。
4. [OK] ボタンをクリックします (または Enter を押します)。PC-DMISは見つけて、カーソルを指定された行に置きます。

参照コマンドへジャンプ、参照コマンドからジャンプ

編集ウィンドウのコマンド モードにおいて、編集ウィンドウ内の一つのコマンドが別のコマンドを参照する場合、参照されているコマンドへのラベルをハイライト表示してから**編集 | 検索および置換 | ジャンプ先**メニュー オプションを選ぶことで、参照されているコマンドにジャンプすることが可能です。

参照されているコマンドに付いた後、**編集 | 検索と置換 | 元に戻すジャンプ**メニュー オプションを選ぶことにより、ジャンプ前の要素にすばやくジャンプして戻ることができます。



アライメントブロックに以下のコマンドがあり、ブロックで参照されるLIN2要素にジャンプしたいとします。

```
A1= ALIGNMENT/START,RECALL:STARTUP, LIST= YES
```

```
ALIGNMENT/LEVEL,ZPLUS,PLN1
```

```
ALIGNMENT/ROTATE,XPLUS,TO,LIN1,ABOUT,ZPLUS
```

```
ALIGNMENT/TRANS,XAXIS,LIN2
```

```
ALIGNMENT/TRANS,YAXIS,LIN1
```

```
ALIGNMENT/TRANS,ZAXIS,PLN1
```

```
ALIGNMENT/END
```

LIN2をハイライト表示し、メニューバーからジャンプ先メニューオプションを選ぶか、または、ショートカットメニューでそれを右クリックして選んで下さい。その後ジャンプ先を選択するだけで、直前に表示されていたコマンドへジャンプして戻ることができます。

また、編集ウィンドウのコマンドモードにおいて、要素上を右クリックすると表示されるショートカットメニューから、これらのメニューオプションを選択することもできます。

名目値、及び、目標値の編集

ほとんどの場合、要素の測定は問題なくできますが、時々、製造工程中のエラーのために、要素が理論的（名目的）位置の近くに所在せず、かなり移動していることがあります。測定要素の場合、このような状況を解決するには、理論値の調整が必要です。しかし、より高度の自動要素を使用の場合、かわりに目標値を変更することが可能です。それに応じて、経路も調整されますが、寸法は元来の理論値に対応して作成されます。

名目値の変更（測定フィーチャーと自動フィーチャーの両方について）

PC-DMISでは、簡単な方法で名目値を変更することが可能です。コマンドモードの公称値フィールドを修正するには、カーソルを要素の上に置いて、F9キーを押します。

ダイアログ・ボックスが必要なときに更新することができる名目上の情報を表示して現われます。

名目情報を修正して、**OK** または**作成**をクリックしてください。ダイアログ ボックスが閉じます。

- 測定された要素を変更する場合、PC-DMISは測定値も更新するかどうかを尋ねます。**はい**をクリックすると、測定値が新たに入力された設計値に適合するように更新されます。**いいえ**をクリックすると測定値は更新されません。
- 自動要素を変更しようとする、PC-DMISは新しい設計値に適合するように、ターゲット値も更新したいかユーザーに尋ねます。**はい**をクリックするとターゲット値が新たに入力された設計値に適合するように更新されます。**いいえ**をクリックするとターゲット値は更新されません。



関連する寸法があるとき、要素における関連する公称上の値を変更するとメッセージボックスが表示されます。**[はい]** を選択して寸法の公称値を更新すると、PC-DMIS は関連する従来の寸法コマンド内の公称上の情報を更新します。幾何公差コマンドは常に要素の公称値を使用することに注意してください。FCF寸法の詳細については、「幾何公差の使用」の章を参照してください。

目標値の変更（自動要素のみに対応）

自動要素については、理論値のかわりに目標値の変更を選ぶことができます。目標値によって、PC-DMISが自動要素を測定する予定の位置が決まります。これにより、理論値をディメンションのために保存したままで、依然、当ソフトウェアが測定をしようとする位置を変更できます。目標値を変更するには、編集ウィンドウを使用して下さい:

コマンドモードでのターゲット値の変更：Tabキーを押してカーソルを変更するフィールドに移動し、新しい値を入力してから、もう一度Tabキーを押して変更を保存します。

要約モードでは、ターゲット値を変更することはできません。

推測フィーチャー オーバーライド

編集 | 推測オーバーライド サブメニューを用いて、直前に測定されたフィーチャーのタイプを変更することができます。

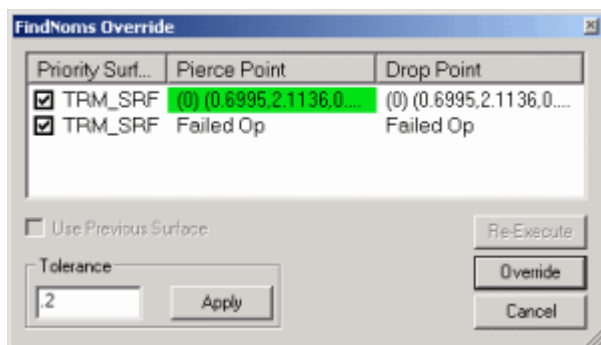
例えば、直前に測定された要素が円であり、PC-DMISがそれを平面と推測した場合、このオプションを用いて、要素のタイプを適切なものに変換することが可能です。このオプションは、その他の要素が測定、または、組み立てられる前に使用されなければなりません。

オーバーライド機能を用いるには:

1. 編集ウィンドウにアクセスして下さい。
2. 編集ウィンドウ内で、不正確なタイプのフィーチャー上にカーソルを配置して下さい。
3. **推測オーバーライド**サブメニューから、正しい要素タイプを選択して下さい。

PC-DMISは、編集ウィンドウで要素タイプを更新します。

発見された名目値オーバーライド



[公称値検索上書き] ダイアログボックス

公称値検索の上書きダイアログ ボックス (**編集 | 公称値検索の上書き**) を使用すると、その他の要素内部の自動ベクトル点、自動表面点および個々の取込み点に対する CAD 表面から適切な公称上の点を選択することができます。このダイアログボックスはティーチングモードと実行モードにおけるPC-DMISのデフォルト公称値検索動作を上書きします。

手動ヒットにより、有効な名目ポイント（名目値発見公差内）を探している間、ほとんどの場合、PC-DMISは正確なポイントを選択します。しかし、例外的に、PC-DMISが適切なポイントを発見できず、かわりに、CADモデル上の不正確なポイントを選ぶことがあります。このような場合には**名目値発見オーバーライド**ダイアログボックスを用いて、PC-DMISがCAD表面から適切な名目ポイントを発見できるようにすることができます。

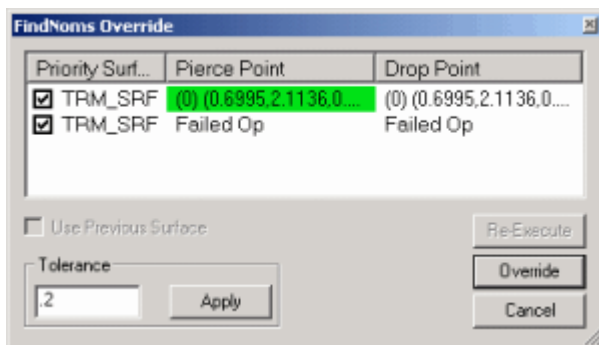


公称値検索の無効化メニューオプションを有効にするには以下を行います。

1. 表面をサポートする有効な CAD モデルをインポートしていることを確認します。
2. 表面モードアイコンを選択します。
3. プログラムモードアイコンを選択します。
4. 設定オプションダイアログボックスの全般タブ(編集 | 環境設定 | 設定)から、公称値の検索チェックボックスと点限定モードチェックボックスの両方を選択します。

以下の項目は**名目値発見オーバーライド**ダイアログボックス自体について記述し、そして、異なるモードでの当該ダイアログボックスの使用法について記述しています：

名目値発見優先ダイアログボックスの理解



[公称値検索上書き] ダイアログボックス

以下のトピックでは、**FindNoms**を上書きダイアログボックス (編集 | **FindNoms**を上書き)を説明します。

優先表面、貫通ポイント、及び、落下ポイント欄

ダイアログ・ボックスのこのエリアはこれらの3カラムを含んでいます。これらの欄は、妥当な名目ポイント値とそれらのT-値（X、Y、Z値の左側に、丸カッコ内に表示された値）を表示します。



「T-値」とは、名目CAD表面ベクトルに沿った名目ポイントから、測定されたヒットまでの距離です。

- **優先面** - このカラムは、**CAD要素の編集**ダイアログ ボックス (**編集 | グラフィックス表示ウィンドウ | CAD要素**)で優先面として保存した表面を一覧表示します。それは表面のタイプとチェックボックスを表示します。このチェックボックスを用いると、PC-DMISが維持する優先表面の一覧で要素を追加または削除することができます。このチェックボックスをチェックすると、PC-DMISは優先一覧に表面を追加します。このチェックボックスを選択解除すると、PC-DMISは優先一覧から表面を削除します。
- **貫通ポイント** - このカラムには、PC-DMISの貫通ポイント オペレーションを用いて見つけられた点の公称値が一覧表示されています。この欄内に「OP失敗」というテキストがある場合、それは、貫通ポイント オペレーションが、その表面上での名目ポイント発見に失敗した、という意味です。PC-DMISがポイントを緑色でハイライト表示する場合には、そのポイントが、選択アルゴリズムによって発見された最適の名目ポイントです。もちろん、この選択されたポイントをくつがえすことが可能です。
- **ドロップ点** - このカラムには、PC-DMISのドロップ点オペレーションを用いて発見された点の公称値が一覧表示されています。

公差ボックス

公差ボックスを用いると、当ダイアログ ボックスを用いて名目ポイントを発見する時に使用する、新規の誤差値を指定することができます。

「以前の表面を使用」チェックボックス


以前の表面を使用チェックボックスは、名目ポイントを探す時、直前に使用された表面を対象に探すように、PC-DMISに指示します。当ダイアログ ボックスが開いた状態で、表面上にヒットが行われた後でのみ、このチェック ボックスが選択可能になります。ヒットが行われた後ではじめて、PC-DMISは、今後のヒット時に使用する表面を持つことになります。

オーバーライドボタン

オーバーライドボタンを用いると、PC-DMISにより発見された不正確な名目ポイントが破棄され優先表面、貫通ポイント、及び落下ポイント欄を持つ一覧から選ばれた名目ポイント データによって優先されます。

学習モードでの、名目値発見オーバーライド ダイアログ ボックスの使用:

学習モードにおいて、このダイアログ ボックスにアクセスするには:

1. セットアップ オプションダイアログ ボックス (編集 | 優先設定 | セットアップ) の全般タブから、ポイント限定モードおよび公称値検索チェック ボックスを選択して下さい。
2. CADの立体モデルをインポート済みであることを確認して下さい。
3. グラフィックス モードツールバーから  表面モードアイコンを選択して下さい。
4. 名目値 オーバーライドメニュー オプションを選択して下さい。名目値発見オーバーライドダイアログ ボックスが現れます。

名目値発見オーバーライド ダイアログ ボックスが開いた状態で、手動ヒットを行うと、PC-DMISは、最も最近測定されたヒット座標とアプローチ ベクトルを用いて、通常の論理に従い、入手可能なうちで、最も正確な名目ポイントを選択します。

その後、名目値発見オーバーライドダイアログ ボックスを用いて、発見された名目ポイントをオーバーライドするための、追加の手続きを行うことができます。

手続き 1: 以前の表面上に名目値を見つける

以前の表面を使用チェックボックスが選択された場合**名目値発見オーバーライド**ダイアログ ボックスは、直前に使用された表面で、名目ポイントを探します。当ダイアログ ボックスが、直前に使用された表面上に、ポイントを発見できた場合、それは名目ポイントを選択し、名目値に基づく自動ベクトル ポイントを作成します。

手続き 2: 優先表面上に名目ポイントを見つける

公称値検索上書きダイアログ ボックスは、直前に使用された表面に公称ポイントを発見できない場合（「手順1: 以前の表面で公称ポイントを検索する」を参照）、**優先表面**から公称ポイントを検索しようとします。優先表面はユーザーが公称ポイントを見つけるためにCAD表面のサブセットとして選択した表面です。**CAD要素の編集**ダイアログ ボックスにある**優先事項**として**設定**チェック ボックスを使用して優先表面を選択または選択解除することができます（「CAD表示の編集」の項にある「CADの編集」トピックを参照）。PC-DMISが優先表面に適切なポイントを見つけるとそれを選択し、公称値に基づいた自動ベクトル ポイントを作成します。また、それは**公称値検索上書き**ダイアログ ボックスにすべての優先表面の公称値検索公差内にある有効な公称ポイントを表示します。

手続き 3: 全CAD表面上に名目ポイントを見つける

PC-DMISが、手続き 1、及び、2 で述べられた手続きによっても、依然、有効な名目ポイントを発見できない場合、（「手続き 1: 以前の表面上に名目値を見つける」、及び、「手続き 2: 優先表面上に名目ポイントを見つける」の項目を参照して下さい）、以下の機能が行われます:

- すべてのCAD表面上で、名目値発見公差内にある最適の名目ポイントを探します。
- 入手可能な中で最適の名目ポイントに基づいた、自動ベクトル ポイントが作成されます。
- **公称値検索上書き**ダイアログ ボックスに公称ポイントを持つすべてのCAD表面を表示します。

手続き 4: 後で、名目ポイントを選択する

PC-DMISが、依然、全CAD表面上で適切なポイントを見つけられない場合、自動ベクトルポイントを作成し、後に名目ポイントを選ぶか否か、尋ねます。それを受け入れると、PC-DMISは、編集ウィンドウ内で自動ベクトルポイントを作成し、以下のオプションが選択可能となります:

オプション 1 - 新規のヒットを行い、PC-DMISが、新しい公称点を探します。 これを行う場合は本質的に手続きを最初からやり直すことになります。

オプション 2 - ダイアログ ボックスから、異なる公称点を選択して、上書きボタンをクリックして下さい。 PC-DMISは以前に選択された公称ポイントを、最近作成された自動ベクトルポイント用に新しく選択されたポイントで上書きします。

PC-DMISが、以下の項目で述べられている手続きで発見を試みている名目ポイントを避けたい場合に通常、これを行ってください:

- 「手続き 1: 以前の表面上に名目値を見つける」
- 「手続き 2: 優先表面上に名目ポイントを見つける」
- 「手続き 3: 全CAD表面上に名目ポイントを見つける」

オプション 3 - 画面からCAD表面を選択することができます。 次に、PC-DMISは選択した表面で設計上の点を検索しようとし、設計値を検索を上書きダイアログボックスでそれらの点を表示します。

その後、この新表面からポイントを優先選択し**オーバーライド**をクリックすることにより、以前に発見された名目ポイントを破棄することができます。



PC-DMISはこのオプションで設計値検索を無視します。従って、選択されたCAD表面が設計値検索公差範囲外である場合にも、ダイアログボックスがこのポイントを表示します。

オプション 4公差ボックス内の数値を変更して**適用**ボタンを押すことにより、設計値検索公差を増加させることができます。その後、PC-DMISはもっと大きな公差値を使用して、これらの手順を再度適用し、適切なポイントを見つけるとすべて表示します。

- 「手続き 1: 以前の表面上に名目値を見つける」
- 「手続き 2: 優先表面上に名目ポイントを見つける」
- 「手続き 3: 全CAD表面上に名目ポイントを見つける」

発見された名目値オーバーライド

それから、有効ポイントを選択し**オーバーライド**をクリックして、最近作成された自動ベクトルポイント用の名目ポイントを確定して下さい

公差ボックス内の名目値発見誤差を増加することは**セットアップ オプション**ダイアログボックスの**一般**タブにおいて、名目値発見公差を変更することと同一の効果を持ちます。

最適名目ポイント選択後

ユーザーが最良の公称点を選択すると、PC-DMISはその要素に対して選択された表面を記憶します。


手動モードで実行中、PC-DMISは以下を行います:

1. **[設定オプション]** ダイアログボックス(**編集 | 環境設定 | 設定**)の**[一般]**タブ上で**[実行中に公称値検索]**ボックスにある公差値を使用します。これが機能するには、**[一般]**タブの**[実行中に公称値検索]**チェックボックスをオンにする必要があります。
2. 同じ表面とCAD操作(貫通点またはドロップ点操作)を使用して、最近実行された点の新しい公称値を検索しようとします。

PC-DMISはそのCAD表面で公称点を見つけることができない場合、**[公称値検索上書き]**ダイアログボックスを再度開きます。実行時間については、PC-DMIS Core ドキュメントの「**実行モードでの公称値検索上書きを使用**」トピックを参照してください。

実行モードでの、名目値発見優先ダイアログボックスの使用:

「最適な公称点を選択した後のトピックで述べられているとおり、以下の条件を満たす場合に、PC-DMISは**公称値検索を上書き**ダイアログボックスを表示します:

- 表面を持った立体モデルをインポートして **グラフィックス モード** ツールバーから  **表面モード** アイコンを選択しなければなりません。
- **セットアップ オプション** ダイアログボックスの**全般**タブから**実行中に名目値発見**チェックボックスを選択しなければなりません。

- 自動ベクトル ポイント、または、自動表面ポイントが、学習モードにおいて発見された、有効な名目ポイントを持つ必要があります（「学習モードでの、名目値発見オーバーライド ダイアログ ボックスの使用:」を参照して下さい）。
- 実行は手動モードで行われる必要があります。
- PC-DMISは、自動ベクトル ポイント、または、自動表面ポイント フィーチャーを実行しなければなりません。
- PC-DMISは、実行された自動ベクトル ポイント、または、自動表面ポイント フィーチャー用の、名目ポイント発見に失敗しなければなりません。

ダイアログ ボックスが現れた後、パーツプログラム実行が停止され、「学習モードでの、名目値発見オーバーライド ダイアログ ボックスの使用:」の項目で記述されているように、当ダイアログ ボックスを操作することができます。

あなたも再び最近測定ポイントを実行することを決めることができます。そのとき、PC-DMISはまた再実行して公称値を見つけみようとします。もしそれは何の公称値も見つけない場合、PC-DMISはまた**FindNoms Override** ダイアログボックスを表示します。

その後、以下のオプションのうちの一つを行うことが可能です:

- 再び、再実行を行う。
- 「手続き 4: 後で、名目ポイントを選択する」の項目で述べられているようにオーバーライドボタンを使用する。
- キャンセルボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じる。適切な名目ポイントを選択せずにダイアログボックスを閉じると、PC-DMISは、測定データを以前の名目値に置き換えます。

編集ウィンドウから公称値検索上書きダイアログボックスを使用する

FindNomsの上書きダイアログボックスにアクセスするには、これらの機能のいずれかを右クリックし、ショートカットメニューから**FindNomsの上書き**を選択します:

- ベクトル点
- 表面ポイント
- 個々のヒット

実行用のコマンドをマーク

「ティーチングモードで公称値検索上書きダイアログボックスを使用する」トピックで説明しているとおり、このダイアログボックスは要素の測定データ（点とベクトル）を使用して適切な公称上の点を見つけます。

実行用のコマンドをマーク

PC-DMISのコマンドを実行するには、最初に実行のためにそれらをマークする必要があります。以下のメニュー オプションとコマンドがマーク付けをコントロールします。

マーク

編集 | マーキング | マークメニューオプションを選ぶと、指定された要素またはコマンドを実行のためにマークすることができます。デフォルトでは、新規測定ルーチンを作成すると常に、新しく追加された要素およびコマンドは実行のためにマーク済みとなります。マーク済み項目で**マーク**を選択すると、マーキングはクリアされます。



サブルーチンは、マークされていないコマンドの例外です。サブルーチンが呼び出されるたびに、PC-DMISは、サブルーチン内でマークされていないコマンドを実行します。サブルーチンの呼び出しについては、「フロー制御の使用による分岐」章の「サブルーチンの呼び出し」を参照してください。

PC-DMISはその時点でのマーク済みテキスト色を使用してマークされた項目を編集ウィンドウに表示します。また、PC-DMIS はグラフィック表示ウィンドウで要素IDの隣にアスタリスク (*) を表示します。マークされたテキスト色の使用について詳しくは、「環境設定」章の「編集ウィンドウの色を定義」を参照して下さい。

これらのいずれかの方法で要素やコマンドをマークすることができます。

- **編集ウィンドウ内で、ご希望の要素またはコマンドをマークします。**マークしたい要素上にマークを置き、**マーク**を選択します。PC-DMIS はマークされたコマンドを強調表示します。
- **編集ウィンドウの複数のコマンドをマークします。**編集ウィンドウのマークしたいコマンドを選択して**マーク**を選択します。PC-DMIS はマークされたコマンドを強調表示します。

- グラフィックス表示ウィンドウ内で、ご希望の要素をマークする。PC-DMISが変換モードにあることを確認して下さい。Altキーを押しながら希望の要素をクリックします。
- グラフィックス表示ウィンドウ内で、複数の要素をマークする。PC-DMISが変換またはテキストボックスモードにあることを確認して下さい。Altキーを押しながら、希望の要素の周囲にボックスをドラッグします。

編集 | マーキング | 親モードを選択し、構築された要素または測定結果をマークすると、PC-DMISはその構築プロセスや測定プロセスにおいて使用された関連要素もすべてマークします。親モードについては、PC-DMIS Coreドキュメントの「親モード」トピックを参照してください。

編集 | マーキング | 子モードを選択し、要素の構築または測定結果作成に使用された要素をマークすると、PC-DMISは関連するすべての子要素もマークします。子モードについては、PC-DMIS Coreドキュメントの「子モード」トピックを参照してください。



マークされた要素で上記手順の1つを繰り返して、要素およびコマンドのマークを外すことができます。すべての要素の選択を解除するには、**マーク選択を解除**メニュー項目を選択します。

ある項目がマークされた後、一部の項目の特定ラインは、選択を取り消すことができます。たとえば、要素のHIT/BASIC行のマークを解除することができます。このような行のマークが解除されると、PC-DMISはその行を実行しません。

測定結果が実行後にマークされる場合、PC-DMISは測定結果出力およびレポート出力設定に基づいて、結果をレポートウィンドウまたは統計値ファイルに送信します。詳細については、「旧式寸法の使用」章の「出力先」を参照してください。

要素内で特定の行のマークを消去するには:

1. マークされたフィーチャー内の、ご希望のライン（例えば、HIT /BASICライン）にカーソルを移動して下さい。
2. **編集 | マーキング | マーク オプション**を再選択して指定された行のマークを解除します。

実行用のコマンドをマーク

すべてをマーク

編集 | マーキング | すべてをマーク メニュー オプションを選択すると、編集ウィンドウ内のすべての要素、またはコマンドがマークされます。PC-DMISが、編集ウィンドウ内で、選択された項目をマークし、緑色のテキストで表示します。PC-DMISはまた、グラフィックス表示ウィンドウにおいて、実行用にマークされたフィーチャーの各フィーチャーIDの横に星印 (*) を表示します。

すべてをマークが選択されると、PC-DMISは、手動のパーツ配置フィーチャーをもマークしたいか尋ねます。

- はいボタンを押すと、PC-DMISは、パーツ配置フィーチャーを含む、測定ルーチン全体を実行用にマークします。
- いいえボタンを押すと、PC-DMISは、測定ルーチン全体を実行用にマークしますが、パーツ配置フィーチャーは含まれません。また、一連の移動コマンドは手動モードで機能しないためマークされないままになります。

すべて消去

[編集 | マーク付け | すべて消去] メニューオプションを使用すると、以前に実行用にマークされた編集ウィンドウ内のすべての項目が消去されます。

親モード

[編集 | マーク付け | 親モード] メニューオプションでは、PC-DMIS はユーザーが親コマンドをマークすると常に関連する親コマンドをマークするモードになります。PC-DMIS がこのモードにあるときは常に、**[親モード]** メニューオプションの隣のチェックマークが灰色から黒色に変わります。

- 「親」は別のコマンドで使用されるコマンド（またはコマンドからの情報）です。
- 「子」は親コマンドからの情報を使用するコマンドです。

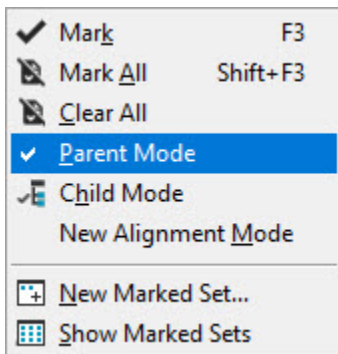
例えば、**親モード**を有効にして作成された要素をマークすると、PC-DMIS は作成された要素をマークし (子コマンド)、PC-DMIS は作成された要素と作成された要素を作成するのに使用される任意要素をマークします (親コマンド)。




親モードおよび子モード機能は編集ウィンドウでコマンドモードにあるときのみ機能します。

これをさらによく理解するには：

1. メニューから **[親モード]** オプションを選択して有効にします (**編集 | マーク付け | 親モード**)。



2. 編集ウィンドウのツールバーから (**表示 | ツールバー | 編集ウィンドウ**)、**[すべて**

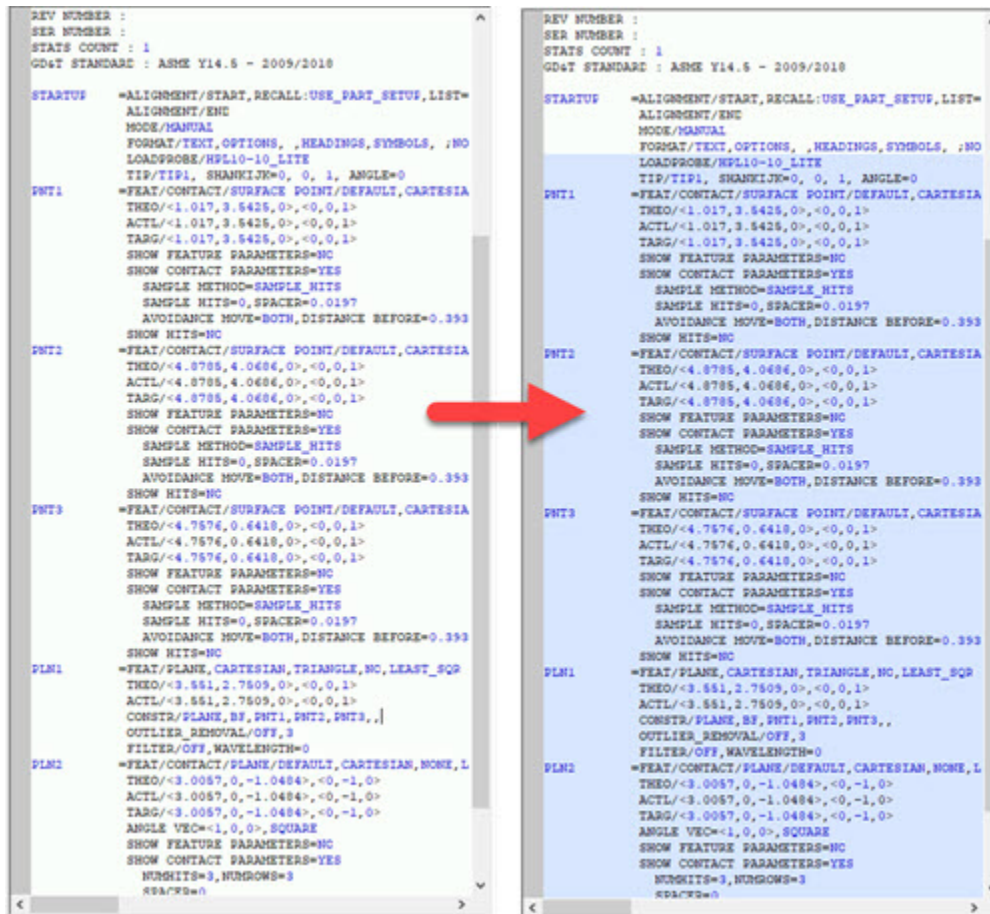
をマークする] ボタン  をクリックしてから、**[マーク付けをクリア]** ボタン



をクリックします。


左側に **[すべてをマークする]** ボタンをクリックした後の編集ウィンドウの様子、右側に **[マーク済みをクリアする]** ボタンをクリックした後の同じ測定ルーチンの様子が下記画像で確認できます。

実行用のコマンドをマーク

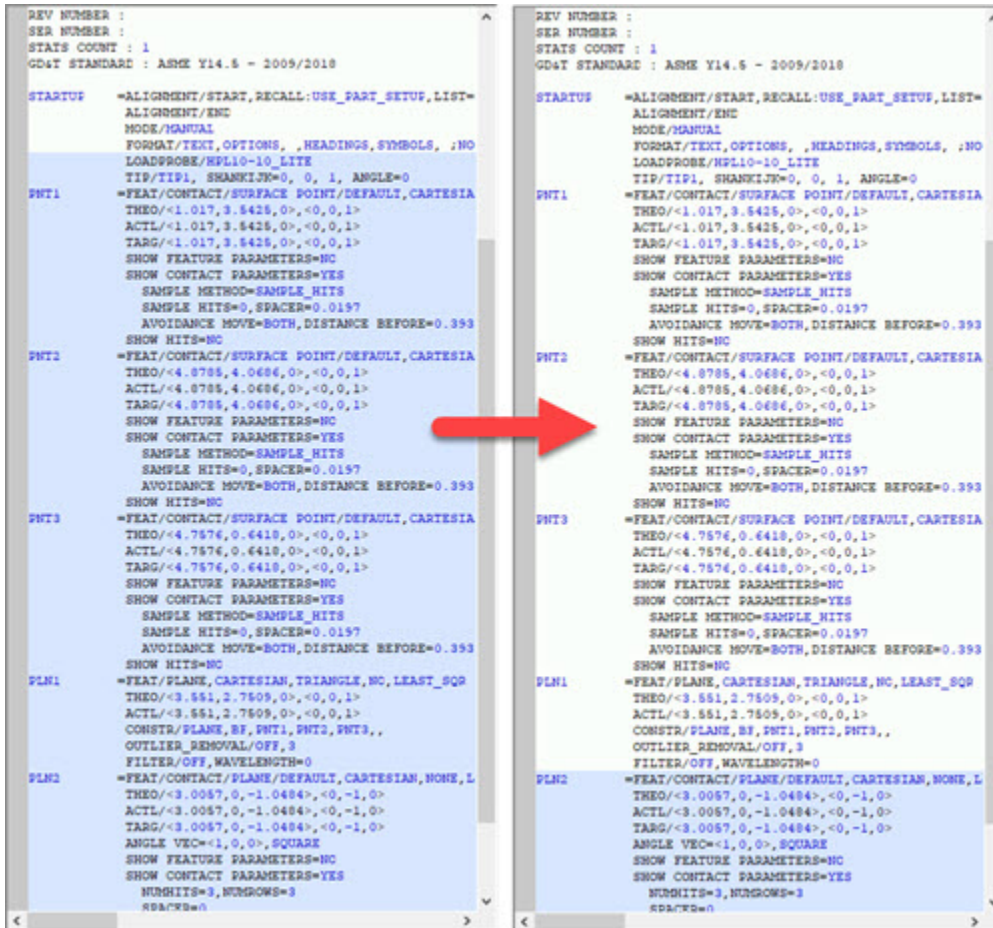


右上の画像で、PLN1 は PNT1、PNT2 および PNT3 から作成されます。これらの 3 点はすべてマークなしとして表示されます。

3. 編集ウィンドウで、PLN1 コマンドにおける任意箇所をクリックしてから、[編集

ウィンドウ] ツールバーで [マーク] ボタン  をクリックします。

作成された平面およびそれを定義するのに使用されるすべての要素も下記画像の右側に示すようにマークされます。



マークされた子コマンドのマークを外しても、その親コマンドはマークされたままです。

子モード

[編集 | マーク付け | 子モード] メニューオプションでは、PC-DMIS はユーザーが親コマンドをマークすると常に関連する子コマンドがマークされるモードになります。PC-DMIS がこのモードにあるときは常に、[子モード] メニューオプションの隣のチェックマークが灰色から黒色に変わります。

- 「親」は別のコマンドで使われるコマンド（またはコマンドからの情報）です。
- 「子」は親コマンドからの情報を使用するコマンドです。

実行用のコマンドをマーク

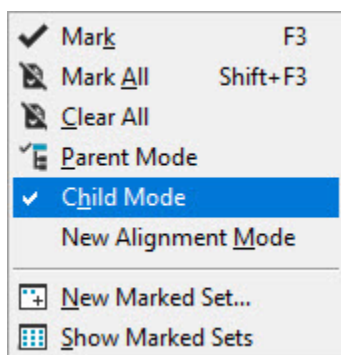
例えば、このオプションを選択し、作成された要素およびそれを作成するのに使用される任意要素をマーク解除する場合、それを作成するのに使用される要素の一つ (親要素) をマークすると、PC-DMIS は関連する作成された要素 (子要素) もマークします。




親モードおよび子モード機能は編集ウィンドウでコマンドモードにあるときのみ機能します。

これをさらによく理解するには：

1. メニューから [子モード] オプションを選択して有効にします (編集 | マーク付け | 子モード)。



2. [編集ウィンドウ] ツールバーから (表示 | ツールバー | 編集ウィンドウ)、[すべて

をマークする] ボタン 

をクリックしてから、[マーク付けをクリア] ボタン




をクリックします。

左側に [すべてをマークする] ボタンをクリックした後の編集ウィンドウの様子、右側に [マーク済みをクリアする] ボタンをクリックした後の同じ測定ルーチンの様子が下記画像で確認できます。



右側の上記画像で、PLN1 はマークされていない PNT1、PNT2 および PNT3 点要素から作成されています。PLN2 はマークされていない PNT3、PNT4 および PNT5 点要素から作成されています。作成された平面 PLN1 および PLN2 は同じ PNT3 子要素を共有します。

3. 編集ウィンドウで、PNT3 コマンドにおける任意箇所をクリックしてから、編集

ウィンドウのツールバーで [マーク] ボタン  をクリックします。

作成された平面、PLN1 および PLN2 は同じ親要素 PNT3 を共有するため、それらも下記画像の右側に表示されるようにマークされます。

実行用のコマンドをマーク



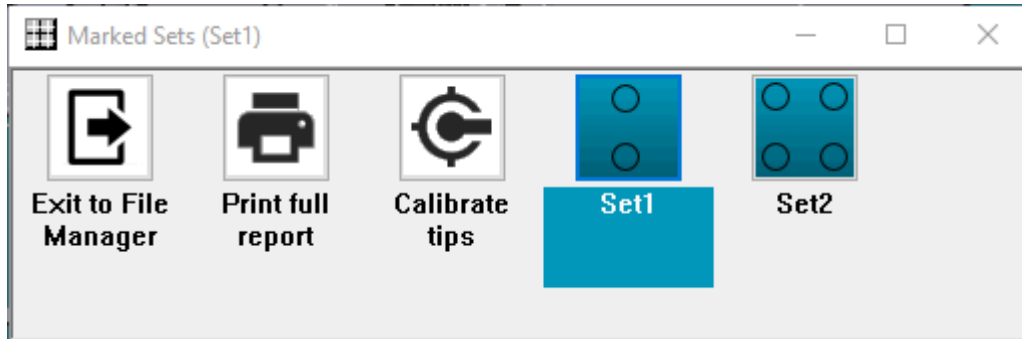
マークされた親コマンドをマーク解除する場合、子コマンドはマークされたままです。

新パーツ配置モード

[編集 | マーク付け | 新しいアライメントモード] (メニューオプションの隣のチェックマークで示されます) を選択すると、要素/寸法が実行用にマークされるたびに、対応するアライメントデータがマークされます。

マーク済みフィーチャーセットの作成と実行

マークされた要素を「セット」と呼ばれるグループに整理することができます。次に、[マークされたセット]ウィンドウ（編集|マーク付け|マークされたセットを表示）を使用して、保存されている要素のセットを実行できます。



作成されたマーク済みセットを2個 (セット1とセット2) 含む [マーク済みセット] ウィンドウの例

- 1つの測定ルーチンに対して最大30個のマーク済みセットを定義することができます。
- マーク済みセットを実行すると、PC-DMIS はアクティブなマーク済みセット内の要素のみを実行します。
- PC-DMIS は [マーク済みセット] ウィンドウにすべてのマーク済みセットをアイコンとして表示します。各アイコンはそのマーク済みセットと関連するすべての要素をグラフィカルに示します。



「マークされた要素セット」ウィンドウが非表示のとき、マークされた要素セットはすべて無効であり、測定プログラム実行の標準モードになります。

利用可能なボタン

終了してファイルマネージャーに戻る - このボタンを押すと、開いているすべての測定ルーチンが閉じて開くダイアログボックスに戻ります。開くダイアログボックスについて詳しくは、「基本ファイルオプションの使用」章にある「既存の測定ルーチンを開く」を参照してください。

マーク済みフィーチャー セットの作成と実行

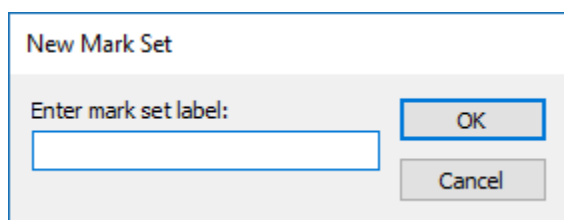
レポート全体を印刷 – このボタンは現在のレポートを選択された出力先に送信します。印刷オプションについて詳しくは、「基本的なファイルオプションの使用」章の「レポートウィンドウの印刷」を参照してください。

チップを校正する – このボタンを押すとプローブユーティリティダイアログ ボックスにアクセスして、プローブチップを校正することができます。PC-DMIS は Romer および Garda インターフェイスに対してはこのボタンを無効にします。プローブ定義とチップ校正について詳しくは「ハードウェアの定義」章の「プローブの定義」を参照してください。

マーク済みセットに対するボタンをクリックすると、PC-DMIS はそのマーク済みセットに関連する要素を実行します。

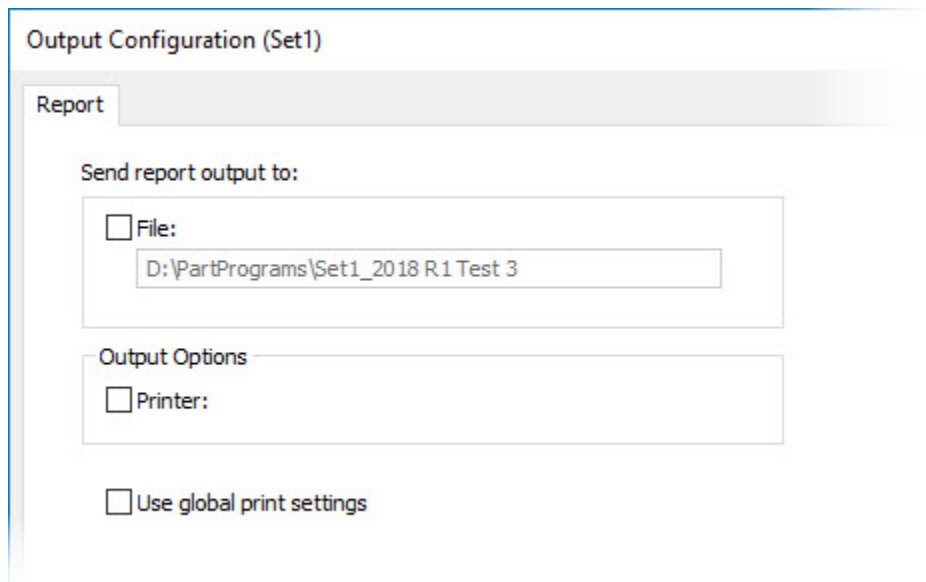
新規の、マーク済みフィーチャーセットを作成するには

1. **編集 | マーキング | 新しいマック済みセットオプション**を選択するか、**[マーク済みセット]** ウィンドウのどこかをダブルクリックします。**新規マーク済みセット**ダイアログボックスが表示されて新規マーク済みセットの名前を要求します。



[新規マークセット] ダイアログボックス

2. **マーク要素セットラベルの入力**マーク要素セットを識別するための名称を入力して下さい。セット名の長さには制限はありませんが、内容のある簡潔なキーワードを用いると、読みやすくなります。
3. **[OK]** をクリックします。新しいマークされたセットが **[マークされたセット]** ウィンドウに保存されます。この時点で、PC-DMISは **[出力設定]** ダイアログボックスも表示します。このダイアログボックスを使用して、このマークされたセットに固有の印刷オプションを定義することができます。(このダイアログボックスのオプションについては、「基本ファイルオプションの使用」章にある「レポートウィンドウの出力およびプリンターオプションの設定」を参照してください)。



[出力設定]ダイアログボックス

4. このセットに固有の印刷オプションを定義します。測定ルーチン全体向けに定義される既存の印刷オプションを使用する場合、[グローバル印刷設定を使用する] チェックマークを選択します。
5. [OK]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
6. ここで、このマーク済みセットを選択し、それに要素を追加する必要があります。これを行うには、既存のマーク済みセットで要素を追加または削除するトピックの手順に従ってください。

マーク付きセットで要素を追加または削除するには

1. **編集 | マーキング | マーク済みセットを表示**オプションを選択して、[マーク済みセット] ウィンドウを開きます。
2. マーク済みセットウィンドウのアクティブ状態で、変更するマーク済みセットを選択します。タブを押してセットを繰り返したり、セットを1回クリックして選択したりすることができます。
3. 要素を追加するには、編集ウィンドウで、追加する要素をマークします。

「**編集 | マーキング | マーク**」（またはF3キーを押す）を選択して、選択された要素のマーキング状態を切り替えることができます。

マーク済みフィーチャー セットの作成と実行

[マーク済みセット]ウィンドウのセットのアイコンは、変更を反映するように動的に変更されます。

マーク済みフィーチャーセットのアイコンをカスタマイズするには

ご希望の場合には、デフォルト設定のグラフィックスのかわりに、ユーザー定義のビットマップイメージをマーク済みフィーチャーセットに与えることができます。ユーザービットマップを適用するには、

1. Windowsまたはお好みの他のいくつかの画像編集プログラムに付属のペイントアプリケーションを使用してカラービットマップを作成します。ビットマップは、サイズで48x48ピクセルほど大きくあるべきではありません。
2. ビットマップファイルは、測定ルーチンと同様のディレクトリに保存して下さい。PC-DMISが認識するために、ビットマップのファイル名は、以下の名称様式を使用する必要があります:

最初のマーク済みフィーチャーセット用には`MARKST00.BMP`

2番目のマーク済みフィーチャーセット用には`MARKST01.BMP`

3番目のマーク済みフィーチャーセット用には`MARKST02.BMP`

...

31番目のマーク済みフィーチャーセット用には`MARKST30.BMP`



ユーザーが最初のマーク済みセットを作成するときに、ビットマップファイル `MARKST00.BMP` を測定ルーチンのディレクトリに配置すると、PC-DMIS は `MARKST00.BMP` 内のビットマップ画像を表示します。マークされたセットにビットマップファイルが存在しない場合、PC-DMIS はデフォルトの画像を表示します。また、連続したビットマップを使用する必要もありません。つまり、マークされたセット1およびセット5のビットマップを使用できますが、マークされたセット2、3および4のグラフィックを使用してください。

マーク済みフィーチャーセットを位置付けし直すには

マーク済み要素セットを再配置する

1. **編集 | マーキング | マーク済みセットを表示オプション**を選択して、[マーク済みセット] ウィンドウを開きます。
2. Shift キーを押しながら希望のマーク済みセットをクリックします。
3. 新しい位置に、マーク済みフィーチャーセットをドラッグして下さい。
4. PC-DMIS は [マーク済みセット] ウィンドウを変更点で更新します。

マーク済みフィーチャーセットを実行するには

1. **編集 | マーキング | マーク済みセットを表示オプション**を選択して、[マーク済みセット] ウィンドウを開きます。
2. 実行する予定のセットをダブル クリックして下さい。PC-DMISが、そのマーク済みフィーチャーセットを実行します。
3. 終了すると、マーク済みフィーチャーセット ウィンドウを閉じて下さい。

マーク済みフィーチャーセットをロックするには

マーク済みフィーチャーセットが測定ルーチンに定義された後、誰かが不意に現時点でのコンフィギュレーションを削除したり、それ以外の場合には、変更したりするのを防ぐために、ロックを設置することが可能です。このオプションに関する、より詳しい説明については、「優先設定」の章にある「マークされたセットのロック」の項目を参照して下さい。

マーク済みフィーチャーセットを削除するには

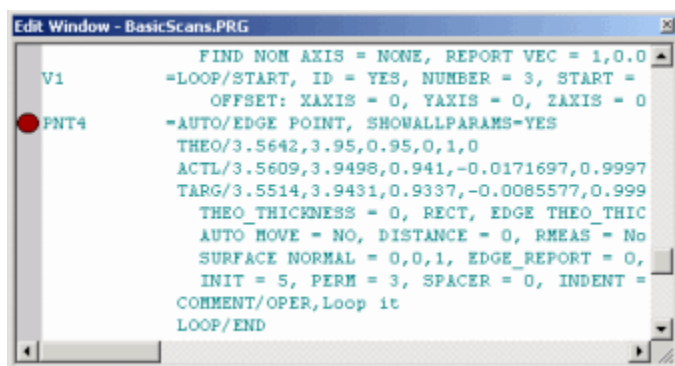
以前に作成されたマーク済みフィーチャーセットはいずれも、容易に削除することが可能です。手順は次のとおりです:

1. **編集 | マーキング | マーク済みフィーチャーセット表示オプション**を選択して下さい。マーク済みフィーチャーセット ウィンドウが現れます。

ブレイクポイントの使用

2. 削除したいマーク付きのセットがアクティブであることを確認します（Tab キーを押してセットを通覧するか、またはセットを一回クリックしてそれを選択します）。
3. [削除] キーを押してマークされたセットの削除を確認するのに使用できる [確認] ボックスを開きます。
4. [はい] ボタンをクリックしてマークの付いたセットを削除します。これで [マークの付いたセット] ウィンドウからアイコンも削除されます。
5. 終了したら [マークの付いたセット] ウィンドウを閉じます。


ブレイクポイントの使用




ブレイクポイント（赤色アイコン）の付いた編集ウィンドウの例

編集|区切り点メニュー・オプションは、測定ルーチンを作成し、テストし、かつ実行するために有用なデバッグ用ツールを提供します。一般的に、測定ルーチンは順番に、一行ずつ実行されます。測定ルーチンで特定の行にブレイクポイントを置くと、その時点に到達するとプログラム実行が一時停止します。測定ルーチンが様々な式とフロー制御を使用している場合、これらの変数を検証して測定ルーチンが目的通りに機能しているか確認することができます。

PC-DMISは、ブレイクポイントに一時停止したら、一度に一つのステップで測定プロ

セスを継続するように**実行**ダイアログボックスの**[次のステップへ]**ボタン  を使用することができます。これは、移動するにはCMMに指示し、任意のコマンドの各ステップを実行した後にCMMを一時停止させます。ステップモードでは、要素に補充のヒットを挿入でき、既存の要素またはコマンド間に新規要素を挿入することができます。ステップモードはオフラインでシミュレートすることもできます。

測定ルーチンの実行を続行するには、**実行ダイアログ上の続行**  をクリックして下さい。区切り点の配置および削除を促進するためにメニューとキーボードのコマンドを使用することができます。ブレイクポイントは、測定ルーチンと共に保存されるので、次に測定ルーチンが開いた時に、利用可能になります。



測定プログラムがブレイクポイントを使用し、編集ウィンドウがコマンドモードにある場合、PC-DMISは実行中も引き続き編集ウィンドウを表示し続けますが、その時点で実行されているコマンドが赤色でハイライト表示されます。

```
ENDMEAS/
FCFCIRTY1 =CIRCULARITY : CIR1
FEATCTRLFRAME/SHOWPARAMS=YES, SHOWEXPANDED=
CADGRAPH=OFF, REPORTGRAPH=OFF, TEXT=OFF, MULT
STANDARDTYPE=ASME_Y14_5
DIMENSION/CIRCULARITY, 0.01
NOTE/FCFCIRTY1
FEATURES/CIR1,,
FCFCIRTY2 =CIRCULARITY : CIR2
FEATCTRLFRAME/SHOWPARAMS=YES, SHOWEXPANDED=
CADGRAPH=OFF, REPORTGRAPH=OFF, TEXT=OFF, MULT
```

ブレイクポイントを伴う実行中にコマンドモードで用いられる色の例

ブレイクポイント

編集 | ブレイクポイント | ブレイクポイントメニューオプションでは、ブレイクポイントを設定または削除することができます。ソフトウェアは編集ウィンドウの現在のカーソル位置にある行のブレイクポイントを設定または削除します。

ブレイクポイントを設定すると、PC-DMISはブレイクポイントが設定されていることを示すために、編集ウィンドウの行の左マージンに小さな円形の赤いアイコンを表示します。ブレイクポイントを削除するとこのアイコンは消えます。

デフォルトを挿入

編集 | ブレイクポイント | デフォルト設定の挿入 メニュー オプションを選ぶと、測定ルーチンを通して、デフォルト設定位置にブレイクポイントを設定することができます

開始点の設定

。ブレークポイントのデフォルト位置は、編集ウィンドウ内で行として定義され、そこには、CMMを動かすコマンド、または、フローコントロール コマンド（例えば、IFやTHENステートメント）の結果として起こる分枝を起こすコマンドがあります。より詳しい情報については、「フローコントロールを使用した分枝」の章を参照して下さい。

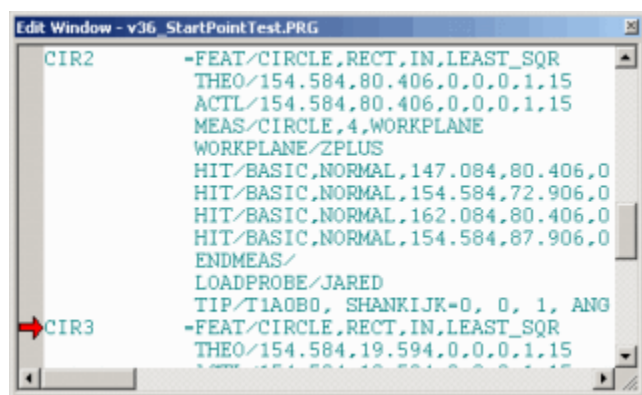
デフォルト設定を除去

編集 | ブレークポイント | デフォルト設定の削除メニューオプションでは、測定ルーチンを通してデフォルト位置からブレークポイントを削除することができます。PC-DMISはデフォルト位置に設定されているブレークポイントのみを削除します。デフォルトでない位置に設定されたブレークポイントは削除されません。詳しくは、「デフォルト設定の挿入」を参照してください。

すべて削除

編集 | ブレークポイント | すべてを除去メニュー オプションを選ぶと、測定ルーチンからすべてのブレークポイントを除去できます。

開始点の設定



スタートポイント（赤色の矢印）を伴う編集ウィンドウ

編集ウィンドウがコマンド モードにあるときにのみ、開始点を設定することができます（「編集ウィンドウの使用」章にある「コマンド モードの操作」を参照して下さい）。


測定ルーチン内に始点を挿入し、それから **ファイル | 部分的実行 | 始点からの実行** を選ぶと、PC-DMISは、測定ルーチンの初めから測定ルーチンのフローを開始するかわりに、最初の始点から測定ルーチンの実行を開始します。



測定プログラムで使用中の現在のルビー位置がプローブヘッドの現在の向きと一致しない場合、PC-DMISは何も行わず、チップの向きを変更するためにその位置より前のチップ コマンドの実行に戻ります。

複数のアームモードを使用し、各アームごとに異なる開始点を設定する必要があるとき、開始点は特に役に立ちます (「複数アームモードの使用」の章を参照して下さい)。

開始点を測定プログラムに挿入するには下記のようにします：

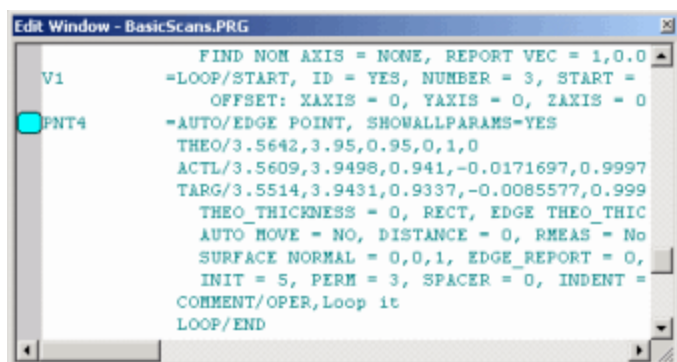
1. 始点を表示する編集ウィンドウの場所をクリックします。
2. 次に、[編集ウィンドウ]ツールバーから[開始点の設定]ボタン  を選択します。
。コマンドモードで右クリックして、ショートカットメニューから[開始点の設定]をオプション選択することもできます。

[開始点の設定]アイコンの詳細については、「ツールバーの使用」章の「ウィンドウツールバーの編集」を参照してください。

開始点が常に測定ルーチンの実行を追跡できるようにする方法の詳細については、「[全般]タブのチェックボックス」の章)の「始点常に実行を追跡」を参照してください。

マルチアームマシンの開始点については、「マルチアームモードの使用」章の「マルチアームの開始点の設定」を参照してください。

ブックマークの使用



ブックマーク（青色アイコン）の付いた編集ウィンドウの例

ブックマークは編集ウィンドウがコマンドモードにあるときに設定できます(「編集ウィンドウの使用」章にある「コマンドモードの使用」を参照)。または、有効な場合、DMISモードでもブックマークを設定することができます。ブックマークは、測定ルーチン内で頻繁にアクセスされる行をマークします。ブックマークを設定したら、メニューまたはキーボードコマンドを使用してそれに移動できます。不要になったブックマークは削除できます。ブックマークは編集セッション間で保存されるため、次に測定ルーチンを開いたときに使用できます。



ブックマークはコマンドではなく行番号に割り当てられることに注意してください。従って、あるモードでブックマーク設定後に、別のモードに切り換えると、ブックマークが同じ行番号上にあっても、異なるコマンド上に表示される可能性があります。

ブックマーク

編集 | ブックマーク | ブックマークメニューオプションでは、ブックマークを設定または削除することができます。ソフトウェアは編集ウィンドウの現在のカーソル位置にある行のブックマークを設定または削除します。

ブックマークを設定すると、PC-DMISはブックマークが設定されていることを示すために、編集ウィンドウの行の左マージンに小さな青いアイコンを表示します。ブックマークを削除するとアイコンは消えます。

次のブックマーク

編集 | ブックマーク | 次のブックマークメニューオプションを選ぶと、編集ウィンドウ内で次のブックマークに移動できます。現在のカーソル位置の下にブックマークが存在しないことが検索で判明した場合、検索は編集ウィンドウの上部から再開されます。

すべてのブックマークをクリアする

編集 | ブックマーク | 全ブックマーク消去メニュー オプションを選ぶと、編集ウィンドウから全ブックマークを除去することができます。

フォント、及び、色を変更

下記に記載される以下の指示によって編集ウィンドウで使用されるフォントと色を編集できます：

- 「ユーザーインタフェースのフォントの利用」章にある「ユーザーインタフェースのカスタマイズ」トピックを参照して下さい。
- 「優先設定」の章にある「編集ウィンドウの設定」トピック。

外部オブジェクトの編集

PC-DMISでは、コマンド モード内でのみ、埋め込まれた外部オブジェクトを編集することができます。これを行うには、コマンド モードでオブジェクトを選択し、選択されたオブジェクトをダブルクリックします。

外部オブジェクトの作成、および挿入に関する説明については、「外部要素の追加」の章にある「外部オブジェクトの挿入」を参照して下さい。

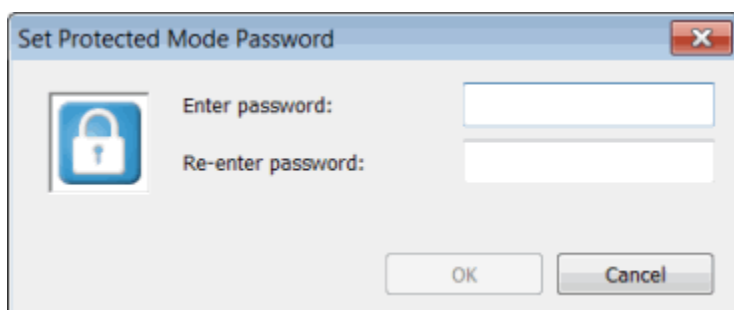
測定ルーチンが編集されることを防ぐために、プロテクトモードを使います。

測定ルーチンが編集されることを防ぐために、プロテクトモードを使います。

プロテクトモードを可能にします。

測定ルーチンに対する意図しない編集を防止するには、測定ルーチンを開く前に PC-DMIS のホーム画面から、[編集 | 保護モード] メニューオプションを選択して保護モードを有効にします。このメニューオプションは現在開いている測定ルーチンが存在しない場合にしか利用できません。

このオプションを選択すると、PC-DMIS は [保護モードのパスワードの設定] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで保護モードを有効にするためのパスワードを定義できます。



パスワードを定義するには、2つのボックスにまったく同じ文字列を入力し、[OK]をクリックします。保護モードを有効にすると、チェックマークが [編集] メニューの [保護モード] オプションの横に表示されます。



保護モードのパスワードは定義されたその他のすべてのパスワードを優先して上書きます。例えば、[設定オプション] ダイアログボックス (編集 | 環境設定 | 設定) または .ipd (検査プランデフォルト) ファイルに対してパスワードの保護を有効にしている場合、代わりに保護モードのパスワードを使用する必要があります。



PC-DMISの管理者として部分的な測定ルーチンの実行を可能にするマークされたセットを作成することができます。オペレータは保護モードにある間にマークされたセットを実行することができます。

保護モードの影響

測定ルーチンを保護するために、保護モードでは次のことはできません：

- 変更コマンド
- 追加コマンド
- 一部の設定を変更
- プローブの校正

コンピュータで保護モードを有効にした後は保護モードが無効になるまで、PC-DMISのそのバージョンの測定ルーチンを変更することはできません。

保護モードを有効にしても下記項目は実行できます。

- 編集ウィンドウとレポートウィンドウを見ること
- 異なるレポートテンプレートを読み取り、見ること
- コマンドのマーキング状態を変更すること
- 測定ルーチンを実行すること

どのような方法でも測定ルーチンやレポートテンプレートを変更することはできません。

視覚のインジケータ

PC-DMIS が保護モードにあるとき、下記の視覚インジケータが表示されます：

- 数個のメニューしか利用できず、それらのメニュー内の大部分のオプションは編集不能です。以下にその例を記載します。

File Edit View Window Help

- 単に編集ウィンドウ ツールバー、プローブ モード ツールバー、およびグラフィックス画像ツールバーのみが利用可能です：

CAD理論値のアップデート

- PC-DMIS は要約モードでのみ編集ウィンドウを表示し、コマンドモードおよび DMIS モードの両方を無効にします。

プロテクトモードを無効にする方法

保護モードを無効にするには下記の手順に従います：

1. 開いているすべての測定ルーチンを閉じます。
2. [編集|保護モード] メニューオプションを選択して、[保護モードのパスワード] ダイアログボックスを開きます。
3. パスワードを入力します。
4. [OK]をクリックします。

ここで、PC-DMISは以上のすべての編集制限を削除します。



ユーザーが **PC-DMIS ユーザー** または **PC-DMIS プログラマーグループ** のメンバーである場合、PC-DMIS Core ドキュメントの「認証」セクションおよび「認証済み測定ルーチンの編集」トピックを参照してください。

CAD理論値のアップデート

インポートされたCADファイルに基づいて編集ウィンドウにおける要素の公称値を更新することができます。これは、CADモデルの公称値に合わせて要素の公称値（または理論値）を簡単に更新することを可能にします。これは、これらの状況に役立ちます：

- 要素が既にCADなしで測定されましたが、CADを持つ現時点で公称値を更新する必要があります。
- 更新されたCADモデルに合わせて要素の公称値を更新しようとします。

CADから要素の公称値を更新するには：

1. ファイル|インポートを選択して、使用するCADモデルをインポートします。モデルをインポートする方法については、「詳細なファイルオプションの使用」章の「CADファイルのインポート」を参照してください。
2. 操作|要素| CADから公称値を更新を選択し、次に、これらのサブメニュー項目のいずれかを選択します。

すべて - 測定プログラムにおけるすべての要素の設計値をアップデートします。

現時点 - 選択された要素の好調値のみを更新します。

ステータスバーに実行時の演算結果が表示されます。

機能の仕方

この操作は、**セットアップオプション**ダイアログボックス（**編集|環境設定|設定**）の[**全般**]タブにある**公称値の検索公差**を使用します。**公称値検索公差**については、**全般**タブの他の編集ボックス」トピックを参照してください。

このリストには、この操作が特定の要素の公称値を更新する方法の情報を提供します。

- **点** - PC-DMISは点要素のXYZとIJKを使用して、CADモデルを貫通する仮想線を描画します。これは、公称値を更新して、CADモデルの原点のXYZに最も近い交点を合わせます。
- **エッジ点、交点、頂点** - PC-DMISは、CADモデルでそのタイプの最も近い要素を探します。XYZの値は、元要素の**公称値検索**の許容範囲になければなりません。次に、CADモデルに合わせて公称値を更新します。
- **平面** - PC-DMISは平面のXYZをCADモデルの最も近い平面上に投影します。XYZの値は、元要素の**公称値検索**の許容範囲になければなりません。次に、CADモデルに合わせて公称値を更新します。
- **円、楕円、円柱、円錐、多角形、球** - PC-DMISは、CADモデルでそのタイプの最も近い要素を探します。XYZと直径はそれぞれ、元要素の**公称値の検索**の許容範囲になければなりません。円筒と円錐はまた、長さの値を持ち、それも**公称値の検索**の許容範囲になければなりません。次に、CADモデルに合わせて公称値を更新します。
- **角型溝、切り欠き、円形スロット、フラッシュ&ギャップ** - PC-DMISは、CADモデルでそのタイプの最も近い要素を探します。XYZ及び長さ、側面の幅はそれぞれに**公称値の検索**の許容範囲になければなりません。次に、CADモデルに合わせて公称値を更新します。
- **多角形** - PC-DMISは、CADモデルでそのタイプの最も近い要素を探します。XYZと直径はそれぞれ、元要素の**公称値の検索**の許容範囲になければなりません。CADの要素は、元の要素と同じの辺数を持つ必要があります。次に、CADモデルに合わせて公称値を更新します。

実測値を公称値にリセットする

- **線** - PC-DMISは元要素の線の始点と終点をCADモデル上に投影します。両点は**公称値検索**の許容範囲内になければなりません。次に、CADモデルに合わせて公称値を更新します。
- **その他のすべての要素タイプ** - PC-DMISは、すべての要素のヒットを検索し、各モデル上の最も近いXYZ点を見つけるために、CADモデル上にヒットを投影します。各投影点のXYZは、元のヒットの**公称値検索**の許容範囲内になければなりません。

実測値を公称値にリセットする

それぞれの公称値と一致するために要素の測定値をリセットすることができます。ポータブルデバイスを使用する場合は、これがおそらく最も便利です。整列の前の測定された要素は、グラフィックス・ディスプレイ・ウィンドウの測定された位置で装置に関して示されます。もしそれらの場所が前の実行からで、そしてパーツが引っ越したなら、それらの要素は意外な場所でスクリーンの上に描かれる可能性があります。それらの測定値を公称値にリセットすることは要素を描き直します。したがって、それらはCADモデルの上に適切に休止します。

それぞれの公称値と一致するために要素の測定値をリセットすることができます。

1. **操作| 要素| 測定された値を公称値にリセット**をクリックしてください。
2. **すべての** メニュー条項へのクリックですべての公称値を更新できます。現在選択されている公称機能を更新するには、**現在** メニュー条項をクリックしてください。